LION

今月の特集
高齢者支援

12

IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

DECEMBER 2016 WWW.THELION-MAG.JP

ライオン誌（毎月20日発行）第59巻第6号 2016年11月20日発行 昭和33年12月19日付第3種郵便物認可

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズ新書

ライオンズ新書01 ライオンズ力を高める 第1版第2刷

ライオンズクラブの歴史や組織からクラブ運営の全般までを、分かりやすく系統的にまとめた。1983年に刊行した『ライオンズ スピリット』の後継書。
新書判 224ページ
1部500円・送料実費

●大口注文割引：100～499部＝1部450円／500部以上＝1部400円

ライオンズ新書02 LCIF早分かり 第2版第1刷

ライオンズクラブ国際財団の目的や仕組み、寄せられた献金がライオンズの人道奉仕にどのように生かされているかなど、LCIFの概要や意義をまとめた。
新書判 184ページ
1部400円・送料実費

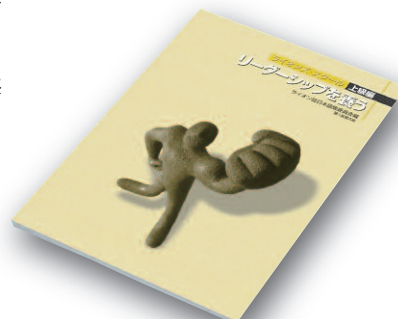
●大口注文割引：100～499部＝1部350円／500部以上＝1部300円

ライオンズスクール・シリーズ

初級編・ライオンズクラブ入門 第3版第6刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ
1部400円・送料実費

上級編・リーダーシップを養う 第1版第5刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ
1部400円・送料実費

●大口注文割引（ライオンズスクール・シリーズ）：100～499部＝1部350円／500部以上＝1部300円

■合計で2万円以上ご注文の場合、送料無料（組み合わせは問いません）。※ただし、急ぎの場合は実費請求
■お申し込みはEメール（office@thelion.jp）またはファクス（03-6674-8781）でお願いします

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●『ライオンズ力を高める』成り立ちから組織、運営まで分かる簡単ガイド …………… 部
●『LCIF早分かり』世界ナンバー1 NGOの簡単ガイド …………… 部
●ライオンズスクール初級編『ライオンズクラブ入門』 …………… 部
●ライオンズスクール上級編『リーダーシップを養う』 …………… 部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

LION MAGAZINE IN JAPAN
November 2016, Vol.59 No.5

We Serve CONTENTS

■2016年12月号
表紙
群馬県みどり市
干し大根
写真／鈴木秀晃

本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

A Message From Our President

Chancellor
Bob Corlew
Lions Clubs International
President

皆で100周年を祝いましょう

「ぼくはぼく自身をたたえる」。偉大なる詩人ウォルト・ホイットマンの詩の一節です。

2017年6月に迎える100周年を目前にして、ライオンズが各地で行動を起こしています。アメリカ・マサチューセッツ州では地元フットボールチームのニューイングランド・ペイトリオッツの今シーズン最初のゲームでスコアボードに私たちの記念日を表示しました。テキサス州ではホテルでパーティーを開き、デコレーションケーキや旗、ラッパ、100個の風船などでにぎやかに祝いました。ペンシルベニア州では何百人もの人々に食事を提供し、音楽やくじ、子どもたちのゲームも用意するというすばらしいやり方で、ライオンズとはどのような人々で、何をしているかを知ってもらいました。

年齢というのは面白いもので、子どもの頃はただ誕生日が楽しみでした。大人になると誕生日はためらいやブラックユーモアがにじむものになります。そして長寿を祝う頃には、再び心からの祝福を受けるのです。ライオンズクラブも同じです。私たちは一度しかない100周年を迎えようとしています。私たちがライオンズであること、成し遂げてきたことを市民にも知らしめ、共に祝福しましょう。私たちの存在はそれだけでは意味が無く、隣人を助けることで初めて価値が生まれます。ですから隣人と一緒にお祝いするのです。

私たちの誕生日を印象付けるための簡単な方法を幾つか紹介します。最初の会合が開かれた6月7日に合わせライオンズの旗を掲げる。クラブや地区で最もライオン歴の長い会員を表彰する。#Lions100のハッシュタグをつけてSNSにアップするなどです。

特別な奉仕事業も実施してください。100周年ダンス・マラソンや、バースデーケーキ作り、100周年の特別なごちそうの配布。地域で100周年を祝うフロートを走らせる、図書館に本を100冊寄贈する、子どもたちにライオンズ・グッズを入れたバッグを100個プレゼントするなどがあります。地域のリーダーたちを招く100周年記念昼食会を開き、100人の会員候補者に参加してもらいます。1917年や2017年をテーマにした映像を披露し新会員獲得につなげましょう。

100周年を記念する特別なパーティーグッズはわざわざ作らなくても、LCIストアーでバナーやポスター、チラシなどを購入することが出来ます。国際協会ではこの節目の時期に皆さんのパーティーをすてきなものにするために、いろいろな用意をしています。

私はこれまでたくさんのライオンたちに、熱意をもって100周年についての話をしてきました。そして多くのメンバーが、7月3～4日の100周年を祝うシカゴ国際大会に参加すると言ってくれました。皆さんどうぞこの記念すべき大会に参加してください。私たちがたたえるのはあなた方です。ライオンをしてライオンズクラブたらしめているのですから。私は自分自身もたたえます。この特別な年を楽しんでください。そして皆さん自身の活動に感謝しましょう。

2016-17年度国際会長
ボブ・コーリュー

※「国際会長メッセージ」の原文は国際協会公式サイトに掲載されています
http://www.lionsclubs.org/EN/who-we-are/our-leaders/presidents-message.php

3 視力を贈る献眼運動

角膜障害で視力を失った人に光を贈る献眼。日本で角膜移植が始まった当初から、ライオンズクラブは先頭に立って献眼登録運動を展開し、「盲人のための騎士」を体現してきた。

富士山を間近に望む静岡県小山町を日本一の献眼の町に導いたのは小山ライオンズクラブだ。結成5年目に会員とその家族全員で献眼登録をしたのを手始めに、半世紀にわたって町民に登録を呼び掛けてきた。初めのうちは耳を貸す人は少なく、登録してくれてもいざとなると遺族の意向で断られることが多かった。小山ライオンズクラブは粘り強く理解を求めると共に、献眼者の志に報いるよう、会員全員が協力して常時献眼の連絡に備える態勢を取った。ライオンたちの情熱と誠意によって、町内の献眼者率は25％を超え、亡くなった町民の4人に一人が献眼するまでになった。

献眼は人生最後の奉仕と言われる。早過ぎる最後を迎えた少女の献眼を経験したのは、山口県・宇部新川ライオンズクラブだ。わずか16歳1カ月で急逝した上田智子さんの角膜提供の知らせが届いたのは、ライオンズの呼び掛けに応えた彼女が宇部まつり会場で登録手続きをしてから9カ月後のことだった。その日、祭から戻った智子さんは父親に、「お父さん、今日はとても良いことをしてきたんよ」と話したという。宇部新川ライオンズクラブは智子さんの遺徳を顕彰し、少女の崇高な奉仕を語り継いでいる。

小山ライオンズクラブは会員一丸となった推進運動によって、1974年1月末の時点で町民の20人に1人の献眼登録を達成した（『ライオン誌』1975年3月号より）

SCENE

小安温泉の源泉を運搬。憩寿園の皆さんに出前足湯を実施

秋田県・十文字ライオンズクラブ

取材／井原一樹　写真／関根則夫

10月19日、秋田県十文字町にある特別養護老人ホーム憩寿園で足湯につかる人たちがいた。十文字ライオンズクラブ（柴田吉伸会長／31人）が毎年春と秋に実施している出前足湯事業だ。クラブがこのアクティビティを実施するようになったのは3年前のこと。稲川ライオンズクラブが同様のアクティビティを実施して好評を得ていたため、参考にしたという。利用者の笑顔を感じられ、メンバーとしてもうれしい気分になる事業だ。

だが、この出前足湯、見かけよりもはるかに大変である。まず、実施当日の朝に小安温泉の源泉を軽トラックに積んだタンクいっぱいに（約500リットル）くんでくる。これを一人ずつが入れるよう、容器に移し替えて提供するのだ。しかし、源泉は90度と非常に高温。これを温度計片手に40度前後まで温度調整する必要がある。その後、台車を使って利用者の待つホールまでお湯入りの容器を持っていく。お湯がたっぷり入っているため、台車に積み降ろしをするだけでも結構な重労働だ。これを繰り返し、50人以上に提供する。当然、入り終わったお湯入りの容器は台車に乗せ、一回一回新しいお湯と交換する。人それぞれ気持ちいいと感じる温度に差があるため、水と源泉を入れたペットボトルをそれぞれ用意し、好みに応じて湯温を調整する。常に熱いお湯の近くにいる上に、これだけの重労働。メンバーの額からは汗が滝のように流れる。だが、利用者の笑顔を見たメンバーは疲れも見せず、誇らしげに笑っていた。

SCENE

福岡県・北九州シニア ライオンズクラブ

取材／砂山幹博　写真／宮坂恵津子

月に一度のこの機会、もっといっぱい楽しんで

「千円高いか八百か。にっこり笑って六百円。さあどうだ」

房の立派な黄色いバナナが掲げられ、威勢の良い口上が響くと、その勢いにつられてか、すぐに「はい」と手が挙がる。ご存じ、北九州は門司港が発祥のバナナの叩き売りの一シーンだ。

会場となった北九州市小倉南区にある守恒市民センターの一室ではこの日、月に一度の「ふれあい昼食交流会」が開催されていた。一人暮らしもしくは夫婦だけで暮らしている高齢者を対象に、管理栄養士が手作りの献立を用意し、皆で一緒に楽しく食べるという市の保健福祉課が行っている催しだ。北九州シニア ライオンズクラブ（迎数代会長／29人）ではクラブ結成当初から、食後のひとときを明るく楽しく過ごしてもらえるようにと、この交流会を盛り上げてきた。冒頭のバナナの叩き売り実演販売もその一つ。クラブの活動に協力してくれている3人のバナナの叩き売り名人が、軽妙な語り口で叩き売りを始めると、会場は笑いの渦に包まれた。バナナは飛ぶように売れ、メンバーが手際よく商品を受け渡していた。この日の売上金約9千円は、全額がその場でふれあい昼食交流会へ寄贈された。

市内にはこうした市民センターが114カ所あり、クラブではそのうち小倉南区と小倉北区の40カ所を対象に年に4回この活動を行っている。バナナの叩き売り以外にもマジシャンに協力頂いて手品を行う他、最近、落語の腕を上げたメンバーがいるので今後、こちらも披露したいと話している。

CLUB REPORT
クラブ・リポート

330-C地区

埼玉県・本庄ライオンズクラブ

笑顔を乗せて、ライオンズクラブ号出発進行

10月23日、本庄総合公園体育館シルクドームで、市内の福祉団体による「ふれ愛祭」が開催され、本庄ライオンズクラブ（種村朋文会長／34人）は恒例のミニSLで会場を盛り上げた。

ふれ愛祭は、本庄市内のボランティアや障害者の団体などが普段の活動内容を展示する他、作った物を即売するイベント。創作意欲と生きがいを高め、障害者の社会参加の幅を拡大することを目的に毎年開催されている。来場した子どもたちが楽しめるイベントをお願い出来ないかと実行委員会から相談されたことを機に、クラブは3年前からこの催しに参加している。

どんなお楽しみイベントにするか。メンバーからはさまざまなアイデアが出たが、開催時間が11時から15時と短いため、準備と撤収が簡単なものがいいだろうという結論に至った。そこで白羽の矢を立てたのが、メンバーが趣味で集めているミニSL。レール幅が5インチ（127ミリ）あることから「5インチゲージ」と呼ばれる乗用鉄道模型だ。自動車のバッテリーを動力として転用出来、レールも30～40分あれば敷設可能とあって今回のようなイベントにはうってつけだった。ミニSLの持ち主ライオン松浦常雄に話を伺った。

「2004年に上越新幹線の本庄早稲田駅が開業した時もそう

●投稿要領：
アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に。700字程度。写真を添付。ライオン誌ウェブマガジンのオンライン投稿か、Eメールまたは郵送で。送付先は57ページ下。

でしたが、何かイベントがある際に、このミニSLと共に駆け付けることが多い。何より子どもたちは動く電車が大好きだし、こちらも楽しみながら出来るのがいい」

　この日用意されたミニSLは、黒部峡谷鉄道のトロッコ列車を模したもの。よく見るとヘッドマークがライオンズのマークになっていて、イベント中は「ライオンズ号」と呼ばれるという。

　会場内でミニSLに乗れることは事前に告知していたが、来場者にその存在を気付いてもらうために、鉄道の汽笛や踏切の音声を拡声器で発信。すると、あっという間に乗り場前に子どもたちの行列が出来ていた。

　1回につき100円で乗車出来、約20メートルのレールを1往復する。基本は子どもが対象だが、小さな子ども連れの保護者も同乗することが出来る。

「ライオンズクラブ号、出発進行」の掛け声と共に、ミニSLはゆっくりと動き出した。レールの継ぎ目で「ガタンゴトン」と音が鳴り、雰囲気は本物の電車さながら。乗っている子どもたちは終始笑顔だ。周りを見渡すと、保護者の方はもちろんのこと、ゆっくりと動くミニSLを眺めるライオンズのメンバーにも笑みがこぼれていた。

　なお、収益金は全て市のふれ愛祭実行委員会に寄付され、福祉活動に役立てられる。

（取材／砂山幹博　撮影／宮坂恵津子）

334-C地区

静岡県・焼津ライオンズクラブ

子どもたちの考える力を養う 親子自然観察会を実施

10月2日、静岡県焼津市にある栃山川自然生態観察公園で焼津ライオンズクラブ（鈴木哲朗会長／50人）が主催、焼津市、焼津市教育委員会が後援する親子の自然観察会が実施された。霧のような雨が降る天候だったが、約50組の親子が虫や小動物を捕まえたり、木の実などを使ってクラフト（手芸品）を作ったりと自然と触れ合った。

クラブがこの事業を実施するのは今回で4回目のこと。初回は10年前、2006年にさかのぼる。

栃山川自然生態観察公園は市が管理する良質なビオトープだ。だが、市民の認知度が低かった。そこで、クラブは公園を有効活用すると共に、青少年育成事業としてこの事業を実施することにしたのだ。06年、07年と2年続けて開催したが、秋は他にも事業が多く、継続をいったんやめてしまった。だが、昨年、久々に事業を復活。非常に反響が良かったため、今年も実施と相成った。

今年は講師を含め、受付、交通整理、誘導など運営は全てライオンズのメンバーで行った。クラフトを作るための材料となる木の実や葉、枝などもメンバーが事前に公園内で拾い集めた。公園には樹木が多く、葉や枝はたくさん落ちているが、虫食いなどがなく奇麗なものはなかなか見つからず、材料集めは思いの外大変だった。だが、子どもたちの楽しむ顔を思い浮かべながら、がんばって探した。

また、例会では葉っぱでバッタを作る講習会を実施。メンバーが教えられる体制を作った。このバッタ作りは親に教えることにしている。観察会の後にも、子どもとコミュニケーションをとる機会にしてもらえれば、という思いからだ。

観察会当日、参加者は「りす」と「らいおん」の2班に分かれて行動した。「らいおん」が先に自然公園の中を散策、「りす」がクラフト作りをし、1時間半ほどで交代する。公園内は自然のままであるため、スズメバチが巣を作るなど、危険な所はあらかじめメンバーがチェックしておく。だが、何でも禁止するというわけではない。もちろん大きなけがなどをしてしまわないように注意を与え、目を配るが、子どもたちの自主性も育てたいと考えている。そこで開会式では、保護者にその旨を伝えた。その結果、大人たちは自由奔放に動き回る子どもたちに振り回されがちだったが、

子どもたちは楽しく過ごしていた。クラフト作りも自由な発想で臨んでおり、親子で話しながら一緒に作る姿も多く見受けられた。

参加者の反応は上々。「来年もやるのですか」という問い合わせも多いという。今後のことはまだ分からないが、クラブにとって継続していきたい事業の一つとなっている。

（取材／井原一樹 撮影／関根則夫）

この日は7クラブの会員を始め市民と園児180人が参加。これに先行して10月1日には80人の会員が参加しチューリップの球根を植えた

334-D地区

第1リジョン第1ゾーン（富山市）

国際協会100周年記念事業として市民と共に富山駅周辺の景観整備

富山市は1945年8月1日から2日にかけ米軍の空襲を受け、市街地の99・5%を焼失した。投下された爆弾は1万2740発。地方都市への空襲としては広島、長崎の原爆投下を除き、最も大きな被害が出た。戦後、焼け野原となった富山市では戦災復興土地区画整理事業が行われ、富山駅南口を起点に5本の放射状道路が敷設された。

10月8日、その放射道路の一つ富山駅神通町線の中央分離帯で、334-D地区第1リジョン第1ゾーン（福田義久ゾーン・チェアパーソン／富山、富山みなと、富山雷鳥、富山南、富山東、富山平成、富山高志）による国際協会100周年記念事業が行われた。中央分離帯に富山県花チューリップの球根3700株と、春から秋の長期間咲くガザニアの苗2400本を植え、花壇を造成。花植えには7クラブの会員、家族の他、近隣住民や幼稚園、保育所の子どもたちも参加した。

中央分離帯にはかつて柳が植えられていたが、既に伐採され、雑草が伸びるままになっていた。

折しも富山市では、2015年3月の北陸新幹線開業に伴い、富山駅周辺の景観整備を計画中だった。今回の活動はそれに合致するため、事業内容を市に提案したところ、市長が協力を約束。300万円の補正予算を組んで、土の入れ替えなどの事前整備を行ってくれた。

その後、7クラブの会員たちはガザニアを芽分けして増殖させ、この日までに約2400本の苗を用意。当日は久野好輝地区ガバナーと末富攻キャビネット幹事、荒尾勝彦地区100周年記念コーディネーターも駆け付け、子どもたちと並んで花を植えた。（取材／鈴木秀晃）

334-E地区

長野県・諏訪湖ライオンズクラブ

児童養護施設つつじが丘学園の子どもたちを招待

7月30日、諏訪湖ライオンズクラブ（161人）と諏訪和支部の面々は早朝からつつじが丘学園に向かった。

つつじが丘学園は長野県岡谷市にある児童養護施設だ。さまざまな理由で親と一緒に暮らせない2歳～20歳の子どもたち約30人が暮らしている。

勤務している10人以上の先生方は、一生懸命子どもたちの面倒を見ている。しかし、子どもたちに家庭的な雰囲気を味わってもらう点においては苦労しているという。

今年度の中村民治会長は、ここ数年YCE委員として活動していたこともあり、青少年問題に非常に関心を持っていた。こうした先生方の意見を耳にした中村会長はクラブで何か出来ないかと検討。このアクティビティを実施することになった。

ライオンズクラブが100周年を迎えることもあり、当クラブでも環境をテーマの事業を実施しようという話になった。そこで子どもたちと一緒に「スクスク育て、大きくなあれ、まっすぐのびろ」と願いを込めた植樹をすることにした。植えたのは、どんぐりの木、ツツジ、ハナモモだ。植樹の後は諏訪市内の蓼の海森林体験学習館へ全員で向かった。そこではクラフト作り、釣り、アスレチック、昼食のカレー作り、ハイキングを実施。心配した天気は、暑くもなく寒くもなく、まさに野外活動日和。最後には子どもたちも大はしゃぎだった。帰りのバスでの子どもの一言「来年もあるかな?」が印象的だった。喜んでもらえたようで幸いだ。また会おうね。（会計／市村逸子）

336-A地区

香川県・高松栗林ライオンズクラブ

国立台中盲・聾学校訪問で台湾全国獅子会と文化交流

高松栗林ライオンズクラブ（浮田和也会長／66人）は、高松紫雲ライオンズクラブ（三崎省三会長／67人）、台湾全国獅子会創会会長協進会、台湾台中市光明獅子会と共に「しあわせ・ありがとう」フレンドリープロジェクトの名の下に合同アクティビティとして、10月7日から9日にかけて台湾を訪問した。

高松市で毎年冬に開催している高松冬のまつりは、高松栗林ライオンズクラブが主管するイベントだ。その中では、手話で「しあわせキラキラ」という歌をコーラスするキラキラ隊がいる。これは、高松市の広報を通じて、一般公募で集めた小中学生に手話を教えて結成したものだ。

10月7日、このキラキラ隊の中から選ばれた精鋭3人を連れて国立台中聾学校を訪問した。

また、今年の12月22日から25日にかけて開催される、第30回高松冬のまつりのために「キラキラポッケ・サンタ音頭」を作り、自ら歌う高松出身のシンガーソングライターのミミカも同行。国立台中啓明学校（盲学校）を訪問し、パーカッションを使用するなどして150人の生徒たちと楽しく交流した。

10月9日には、台中市林佳龍市長他50数人の出席で、台湾全国獅子会創会会長協進会特別例会を開催して頂いた。台湾全国獅子会では、台日文化国際交流ととらえ、主会場の台中中友デパート特設ステージを準備。バスで例会場から移動した後、ミミカは「キラキラポッケ・サンタ音頭」を、キラキラ隊は「しあわせキラキラ」を手話で、それぞれ発表した。

（元会長／塩田博志）

335-C地区

滋賀県・大津びわこ比叡ライオンズクラブ

生態系や漁獲量の回復を目指し セタシジミを琵琶湖に放流

大津びわこ比叡ライオンズクラブ（35人）は琵琶湖を取り巻く自然環境や生物多様性について勉強しており、保全につながる事業を実施しながら啓発活動に努めている。8月には比叡山麓の坂本地区にある水車谷で里山の清掃と整備を行い、地元の自治会から感謝状を拝受した。

そして今回は琵琶湖や瀬田川の環境に関する見識を深めた後、生態系や漁獲量の回復を目指そうとセタシジミの放流を計画したのである。

琵琶湖は1960年頃から始まった総合開発によって、人工島・湖岸堤の建設、湖底の浚渫など激しい開発の波に次々とさらされ、自然環境とそこにすむ生き物は大きく変貌してきた。南湖ではヘドロが1メートルほど堆積しており酸素が供給出来ない環境になっている。セタシジミは湖底10メートル下まで生息しているが、このような環境のため、ピークであった57年には6千トン以上あった漁獲量が2015年には36トンにまで減少している。

そこで当クラブは10月11日、勢多川漁協の協力を得て膳所城跡公園から約250メートル沖の近江大橋付近にてセタシジミの放流を行った。漁師によるとこの場所は船がよく往来するため、スクリューで川底がかき回され、酸素が行き渡るとのこと。我々はバケツをそれぞれ抱え「どうか大きく育って繁殖しますように」と願いを込めて、約20キロのセタシジミを節分の豆まきのように川へ放った。童心に返ったのかのようなみんなの笑顔がとても印象的だった。

（会長／中嶋康延）

334-B地区

岐阜県・高山ライオンズクラブ

恒例のふれあい魚釣り大会 大物に笑顔と歓喜

好天に恵まれた9月14日、高山市の赤保木公園で、ふれあい魚釣り大会が行われた。これは高山市社会福祉協議会が主催する行事。高山ライオンズクラブ（山本弘樹会長／81人）は長年、この事業を支援している。市内の福祉施設や在宅介護サービスの利用者約250人が魚釣りを楽しんだ。

大会は1982年、車椅子を利用されている方たちにも釣りを楽しんで頂こうと、当クラブが公園内に魚釣り場専用の舗装道を設置し、市が池を造成したのを契機にスタートし、以来35回の歴史を刻んでいる。

当日の池には、当クラブが寄贈したイワナやニジマス約400匹が放流され、釣竿を手にした参加者は開会と同時に魚を次々と釣り上げ、魚が釣り上がる度に各所で歓声が沸き上がった。釣った魚は塩焼きにして参加者に振る舞われた。

クラブ会員は、釣りの援助、切れた釣り糸の交換作業等で参加者と交流。今回は、クラブ会長自ら腕を振るった特製の焼きそばと、会員から提供があった冷やしぜんざいで参加者をもてなした。放流した魚の中には釣り上げるのが難しい40センチ級の大物も含まれ、大会の最後には、大きな魚を釣り上げた参加者ベスト5に「大物賞」の贈呈も行われた。

「見つめなおそう、奉仕の心を」が今年度のスローガン。当クラブは現地区ガバナー輩出クラブでもある。大会後の反省会では、クラブの原点である奉仕活動を、誇りを持ってやり抜くことを会員一同誓い合った。

（社会奉仕委員／中田啓寿）

333-A地区

新潟万代ライオンズクラブ

祝10周年
新潟万代LCジュニア俳句大会

9月5日、10回目となる中学生を対象とした俳句大会表彰式が挙行された。主催は新潟万代ライオンズクラブ（室橋和雄会長／86人）。これは青少年健全育成を目的とした事業で、例年PTA連合会長に本大会会長を引き受けて頂き、篠田昭新潟市長もプレゼンターとして参加して頂いている。

クラブがこの事業を始めたのは10年前。有志で句会を楽しんでいた時に出た話がきっかけだ。当時、家庭崩壊やコミュニティーの希薄化に起因する陰惨な事件などが世間をにぎわせていた。こうした事件が起きてしまうのはコミュニケーション力の問題なのか、そもそも家庭に会話が無いことの現れなのか。いずれにせよ言葉の乱れや、違う世代の人と話が出来ないことを危惧する意見が出た。

若い頃は自分の存在を小さく見がちである。しかし、スポーツをする若者などは努力によって社会からスポットを浴びることを知っている。また、不用意な発言が自分に跳ね返ることも分かるのである。その一方で文芸に馴染みのない若者が多いため、文芸の世界でも「若者こそ社会の一員」を知らしめる仕掛けが必要と考えた。その翌年春から第1回新潟ジュニア俳句大会が発足することになる。

「継続は力なり」なのか、10年目の今年は過去最高の2560句が寄せられた。特選句は「八月や広島想う祖父の顔」、大会会長賞は「日焼けあと年中残る父の腕」となり、100人余りが表彰台に上がって、地元紙やテレビで報道された。

（実行委員長／長谷川則之）

333-C地区

千葉県・松戸南ライオンズクラブ

90歳のおばあちゃんと
11歳のひ孫がハイタッチ

9月19日に国際協会創設100周年及び、松戸中央ライオンズクラブ（柿沼由美子会長／27人）40周年、松戸東ライオンズクラブ（水野武明会長／33人）35周年、松戸南ライオンズクラブ（18人）25周年合わせて親子三代100周年記念事業の一環として、敬老の日記念親子三代ご招待ボウリング大会が開催された。

このボウリング大会は、私が前々から常盤平ボウリング場の石川社長の協力を得て、敬老の日に65歳以上の方を対象に無料で開催していた。しかし、回を重ねるごとに応募が増加し、お断りするケースが増えてきていた。そのことを申し訳なく思い、大会中止も考えていたが、東日本大震災が発生。親子三代のチーム戦にし、家族の絆を深める事業として開催したところ、ちょうど良い数になり、以後、継続している。

ゲーム代などは常盤平ボウリング場が無償で提供してくれる他、複数の企業が協賛してくれている。参加賞、景品は東北被災3県から購入。被災地支援にも貢献している。今年は周年が重なったため、特別に3クラブ協賛の大会となった。今回も28組84人全員がけがなく笑顔で帰路についたのを見てホッとした。

特に印象に残ったのは90歳のおばあちゃんと66歳の娘、11歳のひ孫のチーム。おばあちゃんがストライクを出すとひ孫が大声で「おばあちゃんすご〜い」と叫びながら何回もハイタッチしており、家族の絆を強く感じた。今後もこの親子三代ご招待ボウリング大会を通じて社会貢献していければと考えている。

（会長／岩田富久司）

LIONS ON LOCATION

インドネシア：バンドン・セリア ライオンズクラブ

がんの子どもたちに 家族を含めた包括的な支援を

貧困層に生まれ、がんになってしまった子どもたちはバンドンにある病院で治療を受けている。その子たちにはバンドン・セリア ライオンズクラブのメンバーという支援者がいるため、想像されるようなひどい生活には陥っていない。ライオンズのメンバーは子どもたちの元を訪れ、彼らを元気付けている。また、周囲に住んでいる彼らの家族へ、食べ物や洗面道具などを届け、無料で使ってもらうようにしている。

　クラブでは家族の被る、精神的なダメージを考慮した上で子どもたちだけでなく、その家族にもケアをしていこうという方針をとっている。

「支援をすることで、家族の心の傷に対して向き合っています。親切にし、癒やしを与えられるような行動をとっています。また、会話を通してストレスを緩和し、時には議論の相手になることで、患者や家族にとって気持ちのはけ口となれるように努力を重ねています」

　と語るのはジャニー・スザンティ・コサシー会長だ。会長は更に、

「こうして奉仕をし、その経験をクラブ内で共有することで、私たちがいかに恵まれているかを感じ、その恩を恵まれていない人に返しているのです」

　と、クラブ内にも良い影響があることを述べていた。こうしたこともあり、昨期は19人のメンバーで125人の患者とその家族のケアを担当した。インドネシアの西ジャワ州にあり、スンダ地方の中心地であるバンドンで、ライオンズの奮闘は続いている。

LIONS ON LOCATION

ノルウェー、スウェーデン、デンマーク、フィンランド、アイスランド

各国の協力でオーケストラ・ツアー

　スカンジナビア半島の1千人を超える学生たちが毎年、ノルデン・オーケストラに選ばれるために努力している。この競争を勝ち抜いた90人だけがオーケストラの一員として2週間の練習と、スカンジナビア半島やバルト三国での演奏ツアーに参加する栄誉を手に入れられるのだ。

　このオーケストラに選ばれるか否かは、学生たちにとって、その後の音楽家人生を大きく左右するほど重要なことだ。選ばれたことがキャリアの箔になるのもさることながら、世界的な指揮者の薫陶を受けられることも大きい。

　このオーケストラはノルウェー、スウェーデン、デンマーク、フィンランド、アイスランドの5カ国のライオンズが協力し合い、ノルディック・カルチュラル・カウンシル基金と資金を出し合うことで運営されている。オーケストラが集う都市は毎年違う。今年はデンマークのアルボアに集った。

　オーケストラの演奏は非常に評価が高く、名のあるイベントや場所に呼ばれて演奏することがほとんどだ。ベルリンにあるスカンジナビア半島の大使館でも演奏し、スウェーデン出身の国連事務総長であったダグ・ハマーショルドの生誕100周年記念事業にも呼ばれた。

　ノルデン・オーケストラのOB、OGで構成されたオーケストラは既に3団体がプロとして活動している。また、このオーケストラを通じて生涯の友を得る参加者も多い。国境を越え、続いている壮大なプロジェクトが、多くの学生たちの人生を変えている。

3分間
ライオンズ
アクティビティ編

LCIF
ライオンズクエスト：活動

子どもたちを元気に育てる大きな巣

幼稚園児から高校生までを対象にした青少年育成プログラム、ライオンズクエスト（ＬＱ）。年齢に応じた三つのカリキュラムがあり、日本にはその中の「小学生版」と、主に中学生を対象とした「思春期版」の二つが導入され、学校や家庭、地域が一体となって取り組んでいます。

プログラムの中核を成すのは子どもの「健全な自尊心」を育成するという考え方。「〜してはいけない」という禁止型の教育ではなく、「自分の長所に気付こう」とか「もっと良いコミュニケーションをするためにはどうしたらよいか」といった肯定的なメッセージにより子どもたちの自尊心を育てます。その結果、自らの成長を促し、他者を尊重し、喫煙や飲酒といった危険を回避し、いじめなどの問題にも対処出来る「ライフスキル（生きる力）」を身に付けていくのです。

それでは皆さんの地区やクラブがＬＱ事業に取り組むにはどうしたらよいでしょうか。まずはＬＱについて知ること。国際協会のウェブサイト（www.lionsclubs.org）では世界中で実践されているＬＱの全体像が把握出来ます。日本では青少年育成支援フォーラム（ＪＩＹＤ）がＬＣＩＦからＬＱ普及促進を委託されていて、ウェブサイト（www.jiyd.org）にＬＱの説明や実践例など、多くの情報を掲載しています。ＪＩＹＤ所属のＬＱ認定講師によるワークショップに参加することで、子どもたちにＬＱを教える資格を得られます。

ワークショップではブレーンストーミングやロールプレイなど、プログラムで使用する授業手法も学ぶ

資格を得た教師が、学校でＬＱカリキュラムを実施する方法はさまざまです。全学年が毎週道徳等の時間を使って全単元を学習する学校があれば、いくつかの単元をピックアップして実施したり、課外授業として行う学校もあります。中には学校以外の学習教室で取り入れた例もあります。

ライオンズの役割としては、地元の教育委員会や学校へのＬＱ紹介、ワークショップ開催支援、ＬＱを導入した学校への継続支援、ＬＱカリキュラムにある「ボランティア体験学習」への協力等々があります。複合地区や準地区で取り組む場合、ＬＣＩＦ四大交付金を申請することも出来ます（複合ないし複数の準地区合同の場合は上限10万ドル、一つの地区で申請する場合上限2万5千ドル）。ＪＩＹＤ主催の説明員講習会を受講して説明員となり、ＬＱの普及に一役買う方法もあります。

また鹿児島県と北海道ではワークショップに参加した会員や先生方の有志が「ライフスキル研究会」を結成、情報交換や学習会を開催しています。個々の教師や学校といった点から、面への広がりを見せています。

特集：高齢者支援

地域に暮らす高齢者の心に寄り添う支援

日本の総人口に占める高齢者の割合は26・7%に上り、超高齢者社会に向かって突き進んでいる。それと同時に増加しているのが、ひとり暮らしや夫婦だけで暮らす高齢者単独世帯だ。地域の中で高齢者が孤立に陥るのを防ぐために、どのような支援が求められているのか、ライオンズクラブが取り組むアクティビティを例に見ながら考えてみたい。

（取材／河村智子）

ライオンズのメンバーとボランティアの女性たちが作った昼食を前に、お年寄りたちのにぎやかなおしゃべりが始まった。テーブルには大振りな飯椀に盛られた炊き込みごはんと豚汁、漬け物に果物などが並んでいる。

「いつものごはんは、これの半分くらいだな」

「みんなで食べればおいしいから、食べられるんでない」

「このがっこ（秋田方言で漬け物）、ビール漬け？」

「んだ。柔らかくておいしい」

「うちではごはん作らないの。だって食べる人いないでしょ。私、せやみこぎ（怠け者）なんだ」

秋田県・大内ライオンズクラブ（佐々木隆会長／15人）と由利本荘市社会福祉協議会大内支所（以下、市社協大内支所）が開催する「ひとり暮らし高齢者の集い」には、女性29人、男性2人の31人が参加した。市社協大内支所では地区内に住む65歳以上のひとり暮らし高齢者全員にこの集いの案内を送付しているが、参加するのは70歳以上の人ばかりだ。参加者は午前中の2時間で市民祭に出す作品を作り、その後は全員で昼食を楽しむ。今年は、思い思いの絵柄をプリントしたオリジナルせっけんを

作った。

秋田県中央部の由利郡にあった旧大内町は、2005年に本荘市と他の六つの町と合併して由利本荘市となった。稲作中心ののどかな農村地帯で、南には出羽富士の名にふさわしい美しい山容の鳥海山がそびえる。過疎化が進む大内地区の人口は7730人(2016年8月31日現在)で、そのうち65歳以上の高齢者は2868人、高齢化率(65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合)は37・1%。地区内全人口の2・7人に一人が高齢者だ。後期高齢者と呼ばれる75歳以上の人は1671人、地区人口の21・6%を占める。

世界一の高齢社会の現実

日本では1970年頃から急激な高齢化が進み、2000年代に入るとヨーロッパ諸国を抜いて世界一の高齢社会となった。内閣府発表の『平成28年版高齢者白書』によれば、日本の高齢化率は26・7%(2015年10月1日現在)で、都道府県別では秋田県の32・6%(2014年現在)が最も高い。日本の高齢者人口は1950(昭和25)年には総人口の5%未満だったが、70年に7%を、94年には14%を超えて上昇を続

けている。推計では2060年には高齢化率39・9％に達し、国民の約2・5人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上となる超高齢社会が到来する。

日本の高齢者が置かれた環境に目を向けてみると、高齢者だけで暮らす世帯の増加が著しい。高齢者のいる世帯は、1980年には三世代が同居する世帯の割合が最も高く、全体の半数を占めていたが、2014年のデータでは夫婦のみの世帯が約3割と最多で、単独世帯と合わせると全世帯の半数を超えている。

単身で暮らす高齢者にとっては、近隣の住民との関係が重要なものになるはずだが、高齢者と地域の人たちとのつながりの希薄さを浮き彫りにしたデータがある。内閣府が実施した「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成27年／調査対象国：日本、アメリカ、ドイツ、スウェーデン）で、近所の人との付き合い方について尋ねたところ、「相談事が有った時、相談したり、相談されたりする」と回答した割合は、4カ国中日本が一番低く、18・6％（ドイツ48・3％、スウェーデン31・2％、アメリカ28・3％）。また「病気の時に助け合う」の回答でも、日本は5・9％（ドイツ31・

「そのせっけんで体洗ったら20歳ぐらい若返るんでないか」というメンバーの言葉に、大きな笑い声が起きた

9%、アメリカ27・0%、スウェーデン16・9%）に留まった。更に、家族以外の人で相談し合ったり、世話をし合ったりする親しい友人がいるかを尋ねた質問では、「いずれもいない」との回答は日本の25・9%（ドイツ17・1%、アメリカ11・9%、スウェーデン8・9%）が最も高かった。

こうした調査結果を踏まえて『高齢者白書』では、「高齢者が地域社会から孤立しないよう、社会活動の参加を促す取組や支援が今後より求められる」とし、地域における支援の必要性を提起している。

地域社会に出来る支援

大内地区の「ひとり暮らし高齢者の集い」は毎年10月に開催される。1999年に始まったこの会はもともと地元商工会が開いていたが、資金不足などで4年前に大内ライオンズ（クラブ）が加わり、今年からライオンズ単独の事業となった。クラブでは長年にわたり、市社協大内支所に対して車いすなどを寄贈する支援を行ってきたが、これを機に会員が高齢者と直に触れ合うアクティビティにしようと考えた。今年の集いでは市社協大内支所のスタッフがせっけん作りを指導し、その間、メンバーは会場内の各テーブルを回って声を掛け、厨房では女性メンバーが中心となってボランティアの女性2人の手も借りながら昼食の準備を進めていた。

「私たちライオンズのメンバーも高齢になってきていますが、今日はぜひ経験豊富な皆さんのお話を聞かせてください」

佐々木会長は昼食を前にこうあいさつし、一緒にテーブルを囲んだ。参加者の表情は明るいが、普段の生活の話になると、「一人で食べる食事がおいしくない」「一日誰とも口をきかず、しゃべる相手はテレビだけ」と、日常の寂しさを語る声も聞こえてきた。

大内地区にはひとり暮らしの高齢者で作る愛輪会があり、市社協大内支所がその事務局としてグランドゴルフ大会など年に数回の催しを開いている。ただ、ひとり暮らしの人全員が会に入っているわけではなく、ライオンズが開く集いは全員に案内を出して参加を呼び掛ける良い機会になっているという。

「こうした集まりに積極的に出てこられる方については比較的安心なのですが、地域と関わろうとしない方や、足腰が弱って外出がおっくうになり、家にこもっておられる方々のことが心配です」

そう話すのは、市社協大内支所の木原由美子支所長だ。そもそも大内地区のような農村部は、都会に比べて地域住民同士のつながりが強い。住民が自発的に高齢者の集う会を開いている町内会もあり、老人会でもひとり暮らしの高齢者宅を訪ねる「友愛訪問」と呼ばれる活動が行われてきた。しかし近年はそうした活動を好まない人も増えてきており、木原支所長は高齢者の引きこもりを心配している。

大内地区内の高齢者単身世帯には月1回は民生委員が回り、支援が必要な人の自宅には安心電話を設置。また以前は買い物や医療機関へ行く交通機関の不足が課題だったが、現在は各集落をコミュニティー・バスが回り、移動の足が無いという問題は概ね解決しつつある。こうした行政サービスの一方で、民間としてどのような支援が出来るのか、また地区の高齢者はどのような支援を求めているのか、木原支所長に尋ねてみた。まず挙がったのが、買い物を楽しむ機会を作ることだ。高齢者は地区内のスーパーにはコミュニティー・バスで出られるが、衣料品などは遠方に住む子どもに頼んで送って

もらったり、帰省時に買い物に連れていってもらうしかない。特に女性の場合は、欲しい物を自分の目で見て買いたいという気持ちが強い。一つのアイデアとして、小売店から商品を持って公民館に集まってもらい、そこで買い物を楽しんでもらえれば喜ばれるはずだと言う。

もう一つは、高齢者が自由に集えるサロンを作ること。

「好きな時に来て、自由に過ごし、好きな時に帰れるサロンのような場所が作れないかと考えています。管理の方法など難しい点もありますが、例えば、コミュニティー・バスのルート上にある空き店舗を開放してもらうなどの方法が考えられます」

買い物の機会にしても、サロン作りにしても、地域ぐるみの協力があれば、実現可能なアイデアではないだろうか。

ライオンズの高齢者支援

全国のライオンズクラブが取り組んでいるひとり暮らし高齢者の支援には、食事会や遠足などの催しを開く活動の他に、社会福祉協議会などによる戸別の弁当配達のサポートや、高齢者宅の除雪を手伝う活動もある。

1991年から弁当配達の運転ボランティアに参加しているのは千葉県・多古ライオンズクラブ（矢城次男会長／25人）。多古町社会福祉協議会は毎月1回、町内の70歳以上のひとり暮らし高齢者に保健推進員が作る弁当を届けている。配達は保健推進員と運転ボランティアがチームを組んで行う。出来たての弁当を温かいうちに届けるために、各チームが3～4軒ずつを担当する。

多古町社協では弁当配達のための訪問を、高齢者の体調や生活状況の把握に役立てている。運転ボランティアのメンバーも、留守の場合には万が一家の中で動けなくなっていることがないか、洗濯物の有無や、郵便物の溜まり具合などをチェックする。一方、弁当を受け取る高齢者にとっては地域の人と言葉を交わす良い機会になっており、訪問を楽しみに待っている人もいるという。運転ボランティアにはガソリン代として一人500円が支給されるが、多古ライオンズクラブではこれを集めて社協に寄付している。

ライオン誌は毎年、年度初めに行う「クラブ・アンケート」で各クラブが年度内に実施するアクティビティを調べている。高齢者支援の活動に多く見られるのは、特別養護老人ホームなどの高齢者福祉施設への訪

多古ライオンズクラブによる配食運転ボランティア

日立ブーケ ライオンズクラブによるボランティア・メーク

問だ。踊りや寸劇、マジック・ショーなどメンバーによるアトラクションで楽しんでもらう企画が多く、中には幼い子どもたちと一緒に訪問するクラブもある。岡山ひかりライオンズクラブは保育園児と共に高齢者施設を訪問。メンバーはパン菓子を手作りし、食事をしながら交流する会を開いている。また、地域性やクラブの得意分野を生かした特徴ある活動もあり、今月号「SCENE」(6~7ページ)で紹介した通り、秋田県・十文字ライオンズクラブは老人ホームに出前足湯をサービス。同じく秋田県の大曲テンダー ライオンズクラブは、介護老人保健施設のデイサービス利用者を対象に、理美容カット奉仕を行っている。

女性クラブならではの活動に取り組むのは、茨城県・日立ブーケライオンズクラブ(大部啓子会長/51人)だ。毎年春と秋の2回、地域にある二つの高齢者施設を訪問して、女性入居者にメイクのサービスを行っている。

「女性にとってメイクは特別なもの。『美しくありたい』『いつまでも若々しくいたい』と思う心は、女性であれば年齢に関係なく持ち続けているものです」と話すのは、エステ・サロンの経営者でこの活動の中心になっているライオン武内千江子だ。老いと共に化粧をする機会は無くなっていく。メイクすることで沈みがちな心を励ましたいと、ボランティア・メークの事業をスタートさせた。

鏡を前にファンデーションをつけ、口紅をつけると、表情が明るくなって笑顔になる。メイクが終わり「はい、奇麗になりましたね」と声を掛けた時、心まで元気になったのが感じられるのだと言う。メイクの後に撮影した記念写真では、みんな自信に満ちた表情を浮かべる。肌と肌が直接触れ合うメイクを介して、互いの心が通い合い、元気を与えることにつながるのだろう。

2005年にこの活動を始めてから、これまでにメイクを施した高齢者の数は300人以上になる。家族の希望でベッドに寝たきりの状態にある高齢者にメイクをした体験は、ライオン武内にとって忘れられないものになった。

「娘さんとお嫁さんが『最近は目を開けることがなくて一日中寝ていることが多い』と話していましたが、『ばあちゃん! 奇麗にメイクしてもらったよ!』の声に目を開けてくれ、写真が撮れたのです。ご家族と一緒に感動した一瞬で、何度も何度も感謝の言葉を頂きました」

「傾聴」による心の支援

高齢者の心に寄り添う奉仕に取り組むのは、2015年3月に結成された北海道・函館みなとライオンズクラブ(作並真一会長/40人)。介護施設を訪問して入居者の話を聴く、傾聴ボランティアの活動を行っている。独居高齢者の傾聴ボランティアを推進する2015・16年度331-C地区ガバナー方針に沿ってこのアクティビティを企画した。

「傾聴」とは「耳を傾けて熱心に聴くこと」。傾聴ボランティアは、孤独感や寂しさを抱える高齢者や災害被災者の話を聴くことで安心感を与え、心身の安定に寄与する活動だ。

自分の話に一生懸命に耳を傾けてもらえたら、誰でもうれしく感じるものだ。傾聴ボランティアは相談に乗ったり、アドバイスをしたりするわけではないが、人に話を聴いてもらうことだけでも、相手の気持ちは落ち着き、穏やかになる。

ひと昔前までは、買い物へ出れば店主と世間話をし、近所のご隠居さん同士が行き来して茶飲み話を交わすのが日常的な光景だった。人と人との直接的なつながりが希薄になった現代社会では、他人と気安く言葉を交わせる場が消えつつある。そうした中、特に高齢者介護の分野で傾聴ボランティアの活動が広がりを見せている。

傾聴は、一言で言えば「相手の話をきちんと聴く」という単純なことだが、信頼関係を損なうことなく行うためには、それなりのノウハウが必要だ。そのため331-C地区では、高齢者施設を運営するメンバーの協力で傾聴ボランティアの手引き(27ページ参照)を作成し、地区内のクラブに配布した。佐々木忠康地区ガバナー(当時)の方針は、ひとり暮らし高齢者を対象にした支援を重視したものだったが、実際に個人宅へ訪問するとなると、高いハードルが立ちふさがる。そこで函館みなとライオンズクラブでは、会員が経営する介護施設への訪問から始めることにした。

函館みなとライオンズクラブによる傾聴ボランティア

介護施設に入居する高齢者の中には、初めは毎週のように顔を見せていた家族の訪問が遠のき、寂しい毎日を送る人もいる。クラブは女性会員中心のメンバーで施設を訪問し、傾聴アクティビティと併せて、タオルや紙おむつの寄贈も行っている。始めたばかりでもあり、まだあまり成果は見えていないというが、自分の話したいことを自由に話したり、悩みごとを聞いてもらったりすることで「気持ちの整理が出来た」「心の安らぎを覚える時間が過ごせてよかった」という感想が寄せられた。

函館みなとライオンズクラブは平均年齢47歳と比較的若い会員が多い。今年10月の訪問日は日曜日だったため、幼い子どもと親子で参加した会員もいた。子どもと折り紙をして遊んだり、これまでとは違った楽しい時間となって、コミュニケーションがより深まったという。現在は年2回の訪問だが、今後は訪問回数を増やして継続していく計画だ。

同じく昨年度331-C地区ガバナー方針を受けて、ひとり暮らし高齢者の訪問を始めたのは、黒松内ライオンズクラブ(阪井大輔会長/57人)だ。人口約3千人の黒松内町は「福祉の町」と呼ばれる。町内には高齢者施設や障害者施設、児童養護施設など九つの福祉施設があり、入所者とスタッフ、その家族といった施設の関係者が人口の3分の1を占める。黒松内ライオンズクラブはこれまで高齢者施設を訪問するアクティビティを続けてきた。その一方で、以前から単身で暮らす高齢者に対する支援が課題だったと、同クラブの茂尾実元地区ガバナーは話す。

「高齢化に伴って独居高齢者は著し

く増え、一日中家に閉じこもり会話すらない毎日を過ごしている方々は、不安感や孤独感、疎外感、虚脱感を持ちながら日々を送っています。物質的に恵まれている方であっても、一人で心の寂しさを解消することは困難です。そこで、私たちのクラブでは家族会員を中心に高齢者宅を訪問し話を聴く活動を始めました」

傾聴ボランティアの活動を通じて、家族会員にも奉仕の喜びを感じてもらおうと考えたと言う。

今年で2回目となった傾聴ボランティアに参加した家族会員の一人、ライオン佐々木なか子は次のような体験談をつづっている。

「昨年に続き訪問したのは、46年間福祉施設の施設長を務められた方で、退任後は悠々自適の生活を送っておられる。7年前に奥様を亡くしてひとり暮らしをされている。今日はどんなお話が出てくるのか楽しみに来たと伝えると、『そりゃー、生まれは大阪でして……』と柔らかな言葉が出た。昔の話になると穏和な眼差しが輝きだし、身の上話が始まった。『近頃はだんだん記憶が薄れてねえ』と言いながら、90年に及ぶ自分史の物語は尽きることがない。そして、日本各地に友人がいること、今でも多くの人が亡くなった奥様の世話になったと話してくれること、町内の人たちが声を掛けてくれることが幸せだと語られた。人生の先輩から人情味あふれる話を聞くことが出来、私自身が生かされている喜びを知った一日だった」

●

高齢者の孤立を防ぎ、心身共に健やかな生活を送ってもらうためには、物やサービスの支援と同時に、心の支援も欠かせない。ライオンズクラブにも地域の高齢者と触れ合い、心に寄り添う支援が求められている。

傾聴ボランティアの活動について

（2015-16年度331-C地区作成資料から一部抜粋）

【傾聴の意義と効果】

・話し手の心が癒やされ孤独感や不安が軽減し、安心感につながる。
・気持ちが落ち着き考えが整理され、自己解決能力が引き出される。

【カウンセリングと傾聴ボランティアの違い】

「カウンセリング」は専門的知識と特別訓練を受けた専門職（カウンセラー、臨床心理士など）が悩みや相談事を聞き、相互が協働して問題を解決すること。これに対して「傾聴ボランティア」は問題解決のアドバイスはしてはならない。単に相手の話を受け止めて、話し手が更に多くのことを話せるように聴く。

【傾聴のための基本的な心構え】

①話し手の話す内容に集中して耳を傾けるという態勢を意識する。
②話し手の感情に関心を持って受け止めきちんと反応する。かわいそう、何とかしてあげたいなどの同情は自分優位の態度で不適当。
③話し手の価値観や人生観を大切にし、ありのままを受け入れ、自分の考えやアドバイスは控える（受容的態度）。
④悩みや不安に「誰でもそうですよ」と支持、共感することで勇気を与えることが出来る（共感的態度）。
⑤「しかし」「でも」などと話の腰を折ったり、否定したり批判をしない（非審判的態度）。
⑥話の内容は原則他人には話さない。仮に話すことが必要な場合も個人が特定されないようにする（守秘義務、個人情報保護）。ただし、重大な非社会的なことは関係者（職員等）に伝える。

【傾聴場面での基本的態度】

①初めに「こんにちは」「側に座ってもよいですか」などとあいさつし、相手の了解を得てから自己紹介する。
②座る位置は手が届く程度の距離で、斜め前辺りが適切。並んで座るのも可（真正面は不適切）。
③メモや筆記用具は持たない。
④原則聞き手は話さない。話しても聞き手30％、話し手70％を意識する。
⑤話し手の目を見て、表情豊かに、うなずきながら聴く（聴いているというメッセージを発する）。
⑥話し手の問題に巻き込まれない、背負い込まない。

【その他の注意点】

・言葉遣いは普通に、丁寧語（です・ます調）を基本とする。敬語は必要ない。タメ口や幼児語は禁止。
・服装や化粧は派手（チャラチャラ、キラキラ、ヒラヒラ、ゴテゴテしたもの）にならないように。男性はノーネクタイが望ましい。

FWT全日本女性フォーラムin東京

女性の会員増強へ。グッドラン国際第2副会長が女性会員の重要性を説いた。

10月21日、東京・永田町にある衆議院憲政記念館でFWT全日本女性フォーラムin東京が開かれ、各複合地区から約450人が出席した。基調講演は6月に行われた福岡国際大会において、女性で初めて国際第2副会長に選出されたライオングッドラン・イングバドターが務めた。当初は東京ウィル ライオンズクラブ所属の小池百合子東京都知事が出席予定だったが、公務の関係でやむなく欠席となった。

来賓の役員以外、一般の参加者はほとんど女性が占めており、憲政記念館は13時30分の開会前から女性たちのパワーであふれていた。司会は小川晶子FWTエリアリーダー（東日本）が務め、松前龍宗FWTエリアリーダー（西日本）の開会の言葉でスタート。グッドラン国際第2副会長の母国アイスランド国歌と君が代が流れ、ライオンズ・ヒムも斉唱した。各来賓のあいさつの後、いよいよグッドラン国際第2副会長の基調講演が始まった。

グッドラン国際第2副会長は5年前に日本で開かれたシンポジウムに出席したことを導入に、女性会員の増強について重要性を説いた。

ある調査によると、ボランティアに関心がある人の割合は女性の方が男性よりも16ポイントも高かったという。そして、クラブに入会後、退

フォーラムの様子はインターネットを通じて同時配信された

会が少ないのも女性の方だ。そのため、会員増強を推し進める上でターゲットとすべきなのは男性よりも女性である。しかし現状、女性はライオンズの約28パーセントにとどまっている。特にＯＳＥＡＬ地域の女性の割合は世界全体から見ても低いが、ここ5年で劇的な改善がなされている。このことからグッドラン国際第2副会長は日本の女性会員の躍進に大きな期待を寄せていると述べた。だが、同時に、日本では女性リーダーが少ないことにも触れ、女性会員に奮起を促した。女性がクラブに入ることによって違う視点でのアクティビティが増えること。また、実際にリーダーとして活躍している女性を例に挙げ、女性のリーダーが持つソフトリーダーシップの重要さも説いていた。最後にグッドラン国際第2副会長は女性会員を50パーセントにするためには、きちんと目標を立て、女性会員と女性リーダーを増やすための「アクションプラン」を作ること、女性シンポジウムを開催し、ＰＲキャンペーンによりしっかりとマーケティングを行うことが大切だと述べ、講演を締めくくった。

休憩の後は内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付参事官（子供の貧困対策担当）の相川哲也氏から子どもの貧困対策についての説明があり、各複合地区ＦＷＴの活動報告があった。欠席となってしまった小池百合子東京都知事からは長澤千鶴子ＦＷＴ第5会則地域副リーダーとの対談の様子も含めたビデオメッセージが届き、多くの参加者が写真や動画を撮影していた。

2013‐14年度のバリー・パーマー国際会長が語っていた、国際協会100周年の2017年には女性会員を50パーセントにするという夢。17年中の実現は難しいかもしれないが、近い将来にそうした未来が来るのではないかと予感させるような密度の濃いフォーラムだった。

国際理事だより

■国際理事
安井克之
(北海道・旭川東)

ナッシュビル国際理事会の報告

皆様こんにちは。月日の経つのは本当に早いもので、今年も師走を迎え、私の住む北海道は朝晩の寒さもひとしお身に染みる時節となりました。皆様にはご健勝にてライオニズムの高揚にご精進のこと、何よりとお喜び申し上げます。国際理事も2年目に入って早半年が経ちました。これまた月日の速さを痛感しています。

10月13~17日、アメリカ・テネシー州ナッシュビルで国際理事会が開かれました。私は11日に旭川から羽田、そしてカナダのトロントを経由し現地に到着しました。26時間の行程でした。

12日は執行委員会と監査委員会に出席しない人は休息日で、私は夜の歓迎レセプションのみ出席しました。

13日、国際理事会スタート。この日は世界視力デーでしたので、午前中にそのプレゼンテーションがありました。午後は八つの委員会に分かれての会議です。私は奉仕事業委員会所属で、ドイツのヘルムート・マウハウア委員長の下、副委員長を務めています。ボブ・コーリュー国際会長のテーマは「次なる山を目指して」で、私たちのビジョンは地域社会と人道奉仕におけるグローバル・リーダーを目指すことにあります。現在、世界のライオンズは2018年6月までに1億人に奉仕するという高い山、100周年記念奉仕チャレンジに取り組んでいますが、先日2年近く前倒しして達成されました。これは途方もない快挙です。一人ひとりのライオンが奉仕に取り組んだ結果だと思います。

14日には、国際協会の次の100年の戦略となるLCIフォーワードについて話し合われました。主なゴールは、現在の3倍以上となる年間2億人への奉仕です。世界で高まり続けるニーズに応え、人道的奉仕活動を拡大することで達成を目指します。奉仕事業委員会の方針書にはLCIフォーワードについて下記の内容が記されます。①糖尿病(糖尿病を見守る)②自然環境保全③青少年育成(LEO)支援④視力ファースト(世界視力デー)⑤難民・飢餓(食糧支援)⑥小児がん医療

16日に各委員会から提出された内容が全体会議で審議され、理事会は終了となりました。

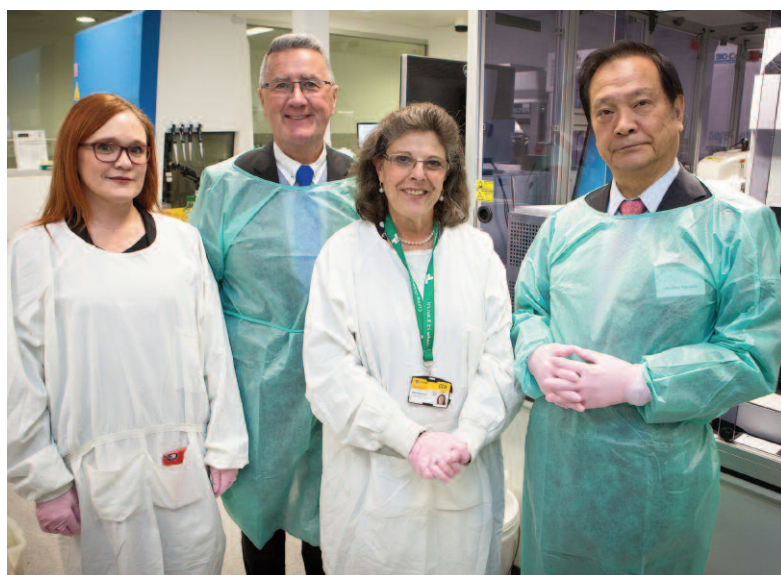
17日午前は世界視力デーの活動として、ナッシュビルの小学校で視力検査の研修が行われ、これを視察しました。午後はジャック・ダニエル蒸留酒製造所ツアーに参加、夜はコーリュー国際会長宅の納屋でバーベキュー・ディナーにお呼ばれし、楽しい時間を過ごしました。

私たちがライオンズの善意の人道奉仕を「ウィ・サーブ」の精神で続けていくためには、仲間(会員)を増やし奉仕の力を高め続けていかねばなりません。今、日本ではGMTやFWTが行動的な会員増強戦略に取り組んでいます。会員の皆様には何とぞご協力頂き、目標に向かって行動してくださいますようお願い申し上げます。

ライオンズ・ニュース・カセット

LIONS NEWS CASSETTE

小児がんの子どもたちを救うオーストラリアのLCIF交付金事業

福岡国際大会でボブ・コーリュー国際会長にバトンを渡した山田實紘前国際会長は、今年度ライオンズクラブ国際財団（LCIF）理事長として、世界各地のLCIF交付金事業の現場を視察し、各国ライオンズにLCIFの意義と協力を訴えている。オーストラリア・シドニーでは、ライオンズ小児ガン・ゲノム・プロジェクトが進行中のギャバン医療研究所を訪問した（写真）。オーストラリア・ライオンズ小児がん研究財団はギャバン医療研究所や他のパートナーと共に、治療が困難な小児がんに苦しむ子どもたちのゲノム解析を行い、それを通して治療効果を高めていくという先端的医療パイロット・プロジェクトに取り組んでいる。LCIFはこのプロジェクトに200万ドルを交付することを承認した。このプロジェクトは一人ひとりに適したがん予防と治療を開発するためのモデルとして、将来的には多くの子どもの命を救うことになると考えられている。山田LCIF理事長は10月31日発信のニュースレターの中で「ライオンズ小児ガン・ゲノム・プロジェクトは、LCIFがグローバルな健康問題に別の新たな側面からも取り組むことを示す事例だと言えるのではないでしょうか。いつか、私たちは小児がんによる子どもたちの死を無くすことが出来るかもしれません。この夢を現実にするために、皆さん一人一人の財団へのご支援をお願いします」と述べ、LCIFへの協力を訴えた。

国際協会創設100周年を祝福するシカゴ国際大会

1917年6月7日、創設者メルビン・ジョーンズが全米各地から27の紳士クラブの代表をイリノイ州シカゴのホテル・ラサールに招へいし、ライオンズクラブが設立された。国際協会創設から100年、2017年6月30日から7月4日、第100回国際大会がシカゴで開催される。会場となるのは北米最大のコンベンション会場マコーミック・プレイスで、ライオンズの歴史を共に祝う100周年記念大会が盛大で記憶に残るものとなるよう、着々と準備が進められている。10月の国際理事会では、代議員投

©City of Chicago

票の日程と手順が見直され、より投票しやすい方法に変更されることが決まった。大会委員会に所属する佐藤宜之国際理事によると、前回までは大会最終日朝の短時間で投票が行われていたが、シカゴ国際大会からは3日間にわたって投票が行える。またこれまでは資格証明と投票の2回の手続きが必要だったが、1回の手続きで投票出来るようになる。変更後の主な日程(10月16日現在)と大会情報は次の通り。

【主要日程】

■7月1日(土)
9時~ インターナショナル・パレード
15時~16時 国際理事候補者推薦
17時30分~20時30分 インターナショナル・ショー

■7月2日(日)
10時~13時 第1回総会(開会式/第3副会長候補者推薦を含む)
13時~20時 資格証明及び投票

■7月3日(月)
9時~20時 資格証明及び投票
10時~12時30分 第2回総会

■7月4日(火)
7時30分~10時30分 資格証明及び投票
10時~13時30分 第3回総会(閉会式)

【会場】マコーミック・プレイス
【本部ホテル】ヒルトン・シカゴ
【大会登録料】
17年1月13日まで:130ドル
17年3月31日まで:180ドル
17年4月1日以降:200ドル

会議録

■第1回複合地区YCE委員長【ウェブ】連絡会議(9月15日)①世話人の互選②複合地区YCE委員長の手引き③本年度活動計画④海外通信窓口担当地区の確認と業務内容について⑤各地区旅行代理店の確認と業務内容について⑥前年度からの申し送り事項について⑦2015-16年度YCE委員長連絡会議収支会計報告⑧冬期交換ⓐ派遣生ⓑ来日生

■第1回複合地区IT委員長【ウェブ】連絡会議(9月29日)①世話人の互選②2015-16年度IT委員長連絡会議からの申し送り事項③今年度の審議課題⑴MyLCIとServannAについて⑵議長連絡会議ウェブサイトについて④ウェブ会議開催申込書⑤関連規定確認

■第3回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議(10月3日)①全国薬物乱用防止パレード(2016年10月29日東京都)への協力依頼の件②ナレシュ・アガワル国際第1副会長公式訪問(11月)③LCIF事務総長とLCI事務総長兼幹事からのレターについて④第55回OSEALフォーラム(2016年11月10日~13日香港)関係⑤その他⑥東京オリンピック・パラリンピック支援について(山浦元国際理事)⑦各種報告

■第3回ライオン誌日本語版委員会(10月4日)①ライオン誌日本語版の運営②公式版ライオン誌編集者会議③ServannAへの会費請求データ抽出機能追加④2016年10月号(9月20日見本/9万5500部発行)出来⑤11月号記事内容の確認⑥12月号以降台割(案)と主要記事予定⑦ライオン誌デジタル化⑧その他

■第1回複合地区会則委員長連絡会議(10月11日)①連絡会議世話人、副世話人の互選②2016年会則・付則改正の確認③2016年福岡国際理事会決議事項要約の確認④ライオンズ必携、ライオンズクラブ役員必携の製作⑤複合地区会則の改正案と各規定の整合性の問題について(330複合地区)

■第2回複合地区国際大会委員長【ウェブ】連絡会議(10月19日)Ⅰ第55回東洋東南アジア・フォーラム(香港)①フォーラム参加登録予定数②最新フォーラム日程確認③ジャパン・ナイト④国際会長歓迎晩餐会(有料行事)⑤100周年記念展示 Ⅱ第100回シカゴ国際大会①暫定国際大会日程②大会登録及びホテル申込書③各公認ツアーコーディネーター④LCIホテル割り当て⑤日本ライオンズ代議員会・朝食会⑥インターナショナル・パレードについて

訃報

■元国際役員
ライオン千葉優男(埼玉県・浦和)
10月21日死去。95歳。88年度330-C地区ガバナー。

■献眼者
8月=ライオン斉藤忠信(富山セントラル)

◎ライオンとしての多大な功績をたたえ、ご冥福をお祈り申し上げます。

WHERE THERE'S A NEED THERE'S A LION
SINCE 1917 100

ライオンズの100年の歴史と奉仕活動の足跡を伝え、その真価を物語るストーリーの数々を紹介します。
写真とテキストは100周年ウェブサイト（lions100.lionsclubs.org）でも閲覧出来ます。

波また波

インドネシアのスマトラ島西岸沖のインド洋下でマグニチュード9・0を超える地震が発生したのは、2004年12月26日のことでした。数時間のうちに、高さ15・5（メートル）もの巨大な津波が次々にインド洋沿岸の11カ国を襲います。南アジアの津波では23万人余りが命を落とし、100万人余りが家を奪われ、被害は近代史上最悪となりました。

「海は全てを奪っていきました」

スリランカ・コロンボにあるウェラワッタウエストライオンズ（クラブ）の（ライオン）ランジャン・ジャヤワルダンは述べています。

ライオンズは真っ先に駆け付けて被災者に手を貸しました。スリランカでは政府と協力して援助活動を組織し、1日16時間働いて物資を送り、避難所にテントを立てました。インドのチェンナイの近くでは、医療に携わる80人がボランティアで応急処置を施し、70近くのクラブが食料や衣類を配布しました。インドネシアとタイでは、地元のクラブが避難者に食料、衣類、家屋、治療を提供しました。ライオンズは、自ら惜しみない寄付と配慮の波を立てて対応したのです。

ライオンズクラブ国際財団（LCIF）も、救援資金を送るために動き出します。ニューヨークの世界貿易センターが攻撃された2001年9月11日以降、LCIFでは災害対応モデルを構築し、ライオンズが災害時に迅速に行動出来るようにしています。このモデルでは、地域と被災者の数、当面と今後のニーズ、復興活動の予想期間、その他の検討事項を分析することで、必要とされる資金を推定します。津波の知らせがLCIFに届くや否や、ライオンズはこのモデルに基づき資金獲得を開始しました。

津波で壊滅的な被害を受けたタイ南部のランタ島に建設されたライオンズ・ビレッジ

集まった1500万（ドル）の資金は全てインド、インドネシア、マレーシア、スリランカ、タイのライオンズに送られ、住宅、学校、孤児院の再建に役立てられました。当時、この復興活動はLCIF史上最大のものでした。

インド・西ベンガル州のコルカタ・ミッドタウン ライオンズ（クラブ）の会員、サンギータ・ジャティア元国際理事は次のように語ります。

「家族を失い、全てを失った人もいました。しかし、ライオンズは彼らと共にありました。彼らには頼れる誰かがいたのです」

波と最初の衝撃が和らいでからもずっと、世界中のライオンズはその時間、労力、資源を注ぎ続け、生活と地域社会全体の再建を支援しました。

天災から5年後、スペインのミハス・プエブロにあるミハス ライオンズ（クラブ）のルイス・ドミンゲス元国際理事は、ライオンズの支援で復興したスリランカの村を訪れました。そこは地域住民に「ライオンズ村」として知られ、繁栄を取り戻していました。新しい家々、遊び場、公民館があり、ミシンが経済再生に役立っています。

「子どもたちの幸せそうな顔を見る以上の喜びはありません」

（ライオン）ドミンゲスは、新しい遊び場で無邪気に戯れる子どもたちを見ながら語りました。

台風10号災害におけるLCIF緊急援助交付金事業／332-B地区（岩手県）

災害に立ち向かう愛の力

「こんな台風、経験したことがない」

誰もが呆然とするほどの雨と風だった。例年の8月1カ月に降る雨の数倍もの量が1日で降り、最大瞬間風速35メートルを超える突風。河川が氾濫（はんらん）して住宅地へ流れ込み、屋根は飛ばされ、雨で緩んだ山が崩壊、道を塞いだ。いくつもの集落が孤立した。

県内で最も大きな打撃を受けた岩泉町では、高齢者グループホームの近くを流れる河川が氾濫、ホームへ濁流が流れ込み、入居者9人全員が犠牲になった。岩手県全体では死者20人、行方不明者3人に上った。

金野幸造332-B地区ガバナーはLCIFに緊急援助金1万ドルを申請。支援に乗り出した。岩泉町を活動域とする岩泉龍泉洞ライオンズクラブが、住民の多様なニーズを発信する役割を担った。メンバー自身も、家の2階まで浸水したり、店や車を流されるなど被災していたが、愛する郷土のために必死だった。

「混乱する状況の中、現地クラブからの情報が頼りでした。迅速に的確に支援することが出来たのは、彼らからの具体的なリクエストのおかげです」

と金野ガバナー。地区内クラブと連携し、レトルト食品や洗剤、ゴミ袋、毛布といった生活物資等を被災地に届けた。土砂のかき出しが始まると、泥を詰める土のう袋や、消毒用の石灰が大量に必要になった。

東日本大震災で救援活動を行った一関中央ライオンズクラブも、今回支援に当たったクラブの一つだ。

「5年前の大災害が思い起こされ、とにかく何か出来ることをと、物資を積んで岩泉町へ向かいました。会員が持ち寄ったり、地元業者が格安で提供してくれたものもあります。皆、同じ気持ちだったと思います」（竹本裕一幹事）

LCIF緊急援助金を活用しての活動は、10月13日をもって完了した。しかし多くの被災地でまだまだ支援が必要な状況であり、土石撤去用の重機やスコップ、石灰等も求められており、支援活動は続く。いまだ道路が寸断されたままの岩泉町へは、一部開通している盛岡からのルートを使い物資を運ぶ。避難所では洗濯が出来ず困っているため、コインランドリーを設置する予定だ。

TOPIC 2

台風10号災害におけるLCIF緊急援助交付金事業／331-B地区（北海道 道東・道北）

ライオンズのネットワークが生かされた支援活動

台風10号による北海道の被害もまた想定をはるかに超えるものだった。25もの河川が氾濫。家々のみならず国道や線路までもを押し流した。一面の茶色い水から、傾いた家の屋根が現れ、途中からちぎれた道路が見える。死者4人、行方不明2人。倒壊や浸水した家屋が千件以上。河川、道路、農業や林業、水産業、商業等の産業被害は3千億円にもなる見通しだ。

高橋忠四郎331－B地区ガバナーは、LCIF緊急援助金1万ドルを受け、ライフラインが寸断された地域へ一刻も早く支援物資を届けようと注力した。現地では電気や水道が使用出来ず、避難生活の中で日々の食事も確保出来ない状況だったのだ。総量千余人分の食料と5千人分の水、120人分の毛布などが被災した各地域で配布されると、地元住民たちはようやく安堵の表情を見せた。

各被災地でのニーズの把握、物資の分配などをより迅速に進めるために、地区とゾーン、各クラブとの連携は欠かせないものだった。更に被災地域の行政機関や商工会とも新たな連携が生まれることになった。

現地では、ライオンズ・ロゴ入りのジャンパーを着たメンバーたちが、避難所の方に声を掛けながら支援物資を手渡していた。南富良野町で行われた炊き出しでは食材を提供。災害ボランティアのフェイスブックには、ライオンズクラブの大きな看板とメンバーらの活動が大きく取り上げられた。

高橋ガバナーは確信している。

「ライオンズならではの迅速な行動力と機動力、そしてクラブが地域に根付いている一方でLCIFという国際的な組織力があってこそ出来た支援活動だったと思います。これらの活動は、ライオンズと地域の皆さんとの『友愛の絆』を更に深めることにつながったと思います」

LCIF FILE

LCIF Development Update

■LCIF献金現況報告

献金額単位：ドル　　2016年9月30日現在

地区	献金額	1人当たり献金額	1人当たり前年度献金額	MJF口数	クラブ参加率
330-A	142,440	31.0	38	119	12.5%
330-B	318,311	78.0	118	219	71.7%
330-C	75,456	46.2	51	65	50.6%
330複合	536,207	52.0	71	403	41.5%
331-A	63,919	27.9	121	60	31.5%
331-B	28,237	12.3	56	23	25.9%
331-C	32,342	20.1	56	23	41.2%
331複合	124,498	20.1	80	106	31.6%
332-A	46,560	26.0	33	34	51.6%
332-B	27,189	17.1	70	23	28.3%
332-C	75,304	54.4	79	66	47.5%
332-D	122,960	61.4	104	120	65.3%
332-E	33,100	19.7	41	33	26.8%
332-F	9,129	8.5	59	7	11.4%
332複合	314,242	33.0	62	283	41.3%
333-A	59,080	22.6	50	50	25.7%
333-B	46,220	39.0	92	42	46.9%
333-C	93,374	31.4	78	81	34.6%
333-D	40,460	23.1	109	38	59.3%
333-E	92,753	31.5	85	87	30.5%
333複合	331,887	28.9	80	298	37.0%
334-A	309,590	67.9	283	306	28.3%
334-B	113,900	37.0	89	100	50.0%
334-C	62,909	26.4	97	58	43.8%
334-D	211,952	55.8	97	184	57.7%
334-E	51,000	27.1	124	47	25.0%
334複合	749,351	47.7	150	695	41.5%
335-A	42,050	21.7	60	39	22.2%
335-B	119,422	23.2	120	95	36.1%
335-C	152,992	41.3	103	118	53.9%
335-D	60,433	35.2	120	57	62.5%
335複合	374,896	30.0	105	309	42.2%
336-A	130,988	25.5	63	105	40.1%
336-B	65,336	22.4	66	33	30.5%
336-C	147,260	46.8	62	114	56.3%
336-D	41,165	13.6	69	33	29.0%
336複合	384,749	27.1	64	285	39.2%
337-A	92,960	21.5	115	89	41.4%
337-B	50,900	23.5	60	50	29.0%
337-C	89,800	33.0	124	79	38.8%
337-D	35,810	16.0	55	30	26.3%
337-E	27,675	17.7	55	21	25.9%
337複合	297,145	22.8	90	269	33.6%
全国	3,112,975	33.5	91.6	2,648	39.0%

LCIF Development Update

国際社会に対する奉仕を全会員参加で！

創立50周年を次年度に控えたLCIFはこれまでに約1万件、約1千億円の人道的奉仕事業を展開してきました。日本のライオンズは90年代半ばにはLCIF献金総額の6割を占めるなど、これまで累計で約350億円の献金をしています。これは他の国の追随を許さないほどの記録であり、日本のライオンズがLCIFを支えてきた証でもあります。

今期、山田實紘LCIF理事長は内外の要望に迅速に対応するために大きな組織改革を行いました。また多くの会員に献金して頂く新しい方法「ゴールド献金会員（100ドル）」に会員全員が協力してくださるよう呼び掛けています。一例ですが、100ドル献金で100人の子どもの予防接種が出来、はしかにより毎日約400人の子どもが命を落としている現状を改善することが出来ます。また災害で被災した家族に1週間分の食料を提供出来、白内障手術を2～3件実施出来ます。そして交付金を利用してクラブ、準地区、複合地区が大きな奉仕事業を行い、社会に貢献すると共に、その経験を生かしLCIFの理解を深めるよう奨励しています。

将来を見据えた山田理事長の方針の実現にご支援とご協力をお願い致します。

（LCIF東日本エリア・コーディネーター／大石誠）

※前月号の記事の中で前年度の330・B地区の金額に誤りがありました。そのため330複合地区の伸び率を202%→102%、全体の増加率を156%→142%、前年度の2カ月間の合計金額を142万3716ドルに訂正致します。

奉仕の歴史を奉仕で祝う 100周年記念奉仕チャレンジ

国際協会創設100周年祭を、ライオンズの神髄である奉仕によって祝おうと、2014年度から「100周年記念奉仕チャレンジ」がスタートしました。「青少年の奉仕を促そう」「視力を分かち合おう」「食料支援をしよう」「環境を保護しよう」の四つの奉仕分野で各クラブが事業を行い、それぞれ2500万人、計1億人に奉仕しようという挑戦です。実施期間は14年7月から18年6月までで、4年度にわたって続けられることになります。

YOUTH
2500万人に貢献

青少年の参加を促そう - 地域の青少年を助ける奉仕事業を行ったり、あるいはレオや地域の青少年に一緒に奉仕を行ってもらい、次世代のボランティアを育てることも出来ます。

VISION
2500万人に貢献

視力を分かち合おう - 目の不自由な子どもや隣人の役に立つ事業を計画して、視力の贈り物をしましょう。

HUNGER
2500万人に貢献

食料支援をしよう - フードドライブ（食品回収）や炊き出し支援活動などを通じて、家庭や地域の健康を支えます。

ENVIRONMENT
2500万人に貢献

環境を保護しよう - 環境を保護・美化する事業を企画し、皆にとって住みよい町づくりを目指しましょう。

ライオンズクラブ国際協会創設100周年のテーマは、「ニーズのあるところに、ライオンズがいる」。
地域のニーズに応えるアクティビティで、100周年祭を祝う記念奉仕チャレンジに参加しましょう。

●宮城県・石巻ライオンズクラブ

新潟県・長岡長生ライオンズクラブとの交流事業

東日本大震災メモリアル「南浜つなぐ館」

宮城エクスプレス㈱の震災資料館

10月28日、石巻グランドホテルで行われた石巻ライオンズクラブ（齋藤昌彦会長／60人）の例会には、長岡長生ライオンズクラブ（黒田勇治会長／83人）の会員たちが参加していた。これは黒田会長からの申し入れで実現したもの。

長岡長生ライオンズクラブは東日本大震災を受け、2011年6月に石巻への支援活動を実施。この時、支援の橋渡しをしてくれたのが、石巻ライオンズクラブだった。

長岡市は04年の新潟県中越地震の震源地となり、大きな被害を受けた。特に地震の翌年に長岡市に編入された旧山古志村は全村避難を余儀なくされ、避難生活は2年以上に及んだ。そうした痛みを知っているだけに、震災から5年が経過しても、長岡長生ライオンズクラブ会員たちの被災地へ寄せる思いは弱まることがなく、今回の石巻訪問へとつながった。

28日早朝に長岡を出発した一行は、東日本大震災被災地の一つ南三陸町を視察した後、石巻市へ入り、石巻ライオンズクラブと同アゼリア支部の合同例会に臨んだ。

更に翌日は、石巻観光ボランティア協会会長として震災の語り部を務める齋藤敏子の案内で被災地を視察。最初に石巻市で最も被害が大きかった門脇・南浜地区や、津波がさかのぼった北上川の河口付近を一望出来る日和山から、同市の被害状況について説明を受けた後、門脇地区にある「がんばろう!石巻」看板脇の東日本大震災メモリアル「南浜つなぐ館」と、宮城エクスプレス㈱が無料で公開している震災資料館を見学した。

石巻市緑町の緑地帯に山古志桜を植樹する長岡長生、石巻両クラブの会員たち

その後、石巻ライオンズクラブが震災復興を祈念し、昨年4月、結成55周年記念事業として150本の桜を植えた県道240号沿いの緑地帯に山古志桜を植樹。この桜は旧山古志村で発見された山桜の八重咲き品種で、長岡長生ライオンズクラブは東日本大震災の翌年、復興祈念事業として長岡市の「かけはしの森」に山古志桜50本を植樹し、毎年3回、枝打ちや堆肥などの森づくり活動を続けている。今回、石巻を訪問するに当たり、国際協会100周年記念レガシー・プロジェクトとして被災地への植樹を計画。石巻ライオンズクラブの協力を得て、復興祈願の山古志桜植樹に結び付いた。（取材／鈴木秀晃）

震災で広がったライオンズの絆

片岡章記
（宮城県・石巻ライオンズクラブ）

かたおか・しょうき　1956年石巻市生まれ。㈱エクセルハウス代表取締役。2004年2月入会。11-12年度クラブ会長、今年度クラブ会計。

　地震の瞬間は大街道の会社で、仕事をしていました。地震でガラスが割れ、書類は散乱。どこから片付けようかと思案している時に、「お父さん！　津波！」という家内の声が聞こえました。まさかこんな所まで津波が来るはずがないだろうと思いながら外へ出てみると、海の方から真っ黒い水が、かたまりとなって押し寄せてくるのが見えました。

　会社の裏にある自宅に、足の悪い母が一人でいたので、家内に様子を見に行ってもらい、私はとりあえず書類が水に濡れないよう片付けを始めました。しかし、あっという間に水かさが増え、書類どころか自分の逃げ場さえなくなってしまいました。

　そこで裏側の出窓を開け、プラスチックの目隠しを素手で破り、2階の倉庫へ上がる外階段の手すりを伝って脱出しました。階段を上がっていくと、見知らぬお年寄りが3人、踊り場の所にいました。逃げる途中で津波に追い付かれ、階段を上がってきたようです。

　その日は非常に寒かったので、とりあえず倉庫を開け、中に入ってもらいました。水は結局、2メートルほど上がってきていたので自宅へは戻れず、3人のお年寄りと一緒に、倉庫にあった建築資材を身体に巻いて一夜を明かしました。停電で辺りは真っ暗闇でしたが、窓から外を見ると、海の方だけが明るく、オレンジ色になっていました。その時は分かりませんでしたが、門脇小学校が燃えていた火の色だったんですね。

　次の日も水は完全には引いていませんでしたので、お年寄りたちには水が引くまで、倉庫を使ってくださいと話し、私は母と家内がいる自宅へ何とか戻りました。自宅も事務所と同様、1階は完全に浸水し、ヘドロで覆われていました。しかし、足の悪い母には避難所生活は無理なので、2階で生活をすることにしました。ただ、自宅避難だと支援物資はもちろん、情報さえも全く無く、最初の1週間は冷蔵庫に残っていた食料で食いつなぎ、裏の水路から水をくんできては、自宅や事務所の掃除をしていました。

津波と火災で大きな被害を受けた石巻市立門脇小学校。損傷が激しいが、震災遺構として部分保存されることになっている

　2週間ほど経った頃、姉妹クラブの山形県・新庄ライオンズクラブが支援物資を持ってきてくださるという連絡が入りました。私は第1副会長だったこともあり、5人程の会員とその受け入れをお手伝いし、物資の集積所に運び込みました。

　その後も、キャビネットなどを通じて全国のクラブから支援の申し入れがあり、自宅や会社の復旧をしながら、ライオンズの方も結構忙しく活動をしていました。特に7月からはクラブ会長として、本当に多くのライオンズの方たちと接点を持つことが出来ました。

　中でも茨城県の古河ライオンズクラブは震災の年から毎年、石巻を支援してくださり、それは5年が経った今も続いています。来月には古河を訪問させて頂くなど、クラブとしての交流も続いています。他にも、それまで全く接点の無かった多くのクラブから支援の申し入れがあり、改めてライオンズクラブの活動の意義や、全国的なつながり、組織の大きさを感じることが出来ました。

獅子吼

ライオニズムを信じて

東都（あずま） 宏（神奈川県・横浜中央）

「No Man Alone」という名言があります。直訳すると「人は独りでは生きられない」とでも申しましょうか。人は生活するために生きているのではなく、生存するために生きています。すなわち自分以外のいろいろな人と関わり合いながら生きていくことが生存だと思います。

私事ですが、街の開業医として50有余年を過ごしてきました。またライオンズクラブに入会して45年、今までの人生の半分に当たる歳月をライオンズと共に楽しく歩んでまいりました。

入会の動機になったのは、ライオンズ必携に記してあるライオンズの目的、道徳綱領、スローガンに魅せられたことであります。「信じる」という言葉から派生した語を見ると、信条とは堅く信じて守る事柄であり、信用ということは、信じて頼る信頼と、信仰する心である信心と、自らの考えを正しいと信じる信念をもって、信じて服従する信服を意味するものと思います。

ライオンズクラブは、「あ」つまってきた、「い」ろいろな人が、「う」ィ・サーブの精神で、クラブライフを「え」ンジョイする、「お」となの集団である、と「あいうえお」で表現出来るほど、メンバーは信頼と絆で強く結ばれています。

私が医師を志したのは、社会的弱者である病める人の役に立ちたいという信念に基いてのものでした。医業は純然たる商売ではなく、あくまでも病める人の立場になって仕事を致します。苦痛に苦しむ患者さんを診れば、例えその人が無一文でも苦痛を取り除いてやらねばならない義務があります。

これはライオンズ道徳綱領の一項に通じます。人の片方の手は自分のためのものですが、もう片一方の手は他者のためにあるものと思っています。これは大事なライオンズの精神につながり、それを信じることが基本であると思います。ともあれ、病める人の診療にあっても、ライオニズムの精神を信奉してこれに従事したいと考える次第であります。

日本語で「しん」と発音する漢字は山ほどあります。「信」は「進」にも通じると思います。私は90歳という高齢ですが、社会から何かをしてもらうのではなく、老いてもなお社会のために何か出来ることはないかと、進歩・進出・進展し、ただいま青少年の薬物乱用防止講演活動を実施しています。薬物の危険性を学ぶには、高校では遅すぎるきらいがあり、主として小学校高学年と中学校低学年を対象に、講師として活動しています。まさに「信」から「進」へと向かっています。そして見返りを求めない奉仕活動に、生きがいを感じています。

「信」はまた「親」にも関わりがありそうです。長年のライオンズライフの間に、たくさんのさまざまな職業の方と「親」しい仲になり、お付き合いをさせて頂いています。親しい友を信じて交流を続けられることは、ライオンズライフの大きなメリットだと感じています。

「信」はまた「心」にも通じるものがあります。心から信服する信条は、生存するには大事な心境だと思います。「信」はまた「新」をもたらします。「温故知新」を信じることは、人を進化させる原動力になります。「信」は「真」

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）

●投稿要領：
会員及び家族によるエッセー、提言など。1,600字程度

にも通じます。ライオンズの真意・真理・真情を信じることは、人生の真価を理解することになりそうです。

「道は近くても行かなければ到達致しませんし、事は小さくても行わなければ成就致しません」「最初から出来ないと言わないでください。ただ難しくて辛いだけです」と言った先人がおられます。「Dream, Dare, and Do」（夢を抱きなさい、挑戦しなさい、そして実現しなさい）はライオンの座右の銘にしたい言葉だと思います。

老いたりとはいえ、この世に元気で生きている限り、世のため人のため、勇気を鼓して決意し、行動と実践に移したいものです。行動無き思想は蜜の無いミツバチみたいなもの、絵に描いた餅のようなものと思います。世情は日々変化し対応に苦慮せずにはいられません。しかしどんなに世情が変わろうと、政治が変わろうと、生存する人にとってライオニズムは不変だと思います。何事も行動・実践には困難と辛酸がつきものです。それは「信じる」ことで救われるものと思います。

（68年入会／90歳）

イラスト／小川和政

世界の平和に一輪の花を添えて

寺門　實（大阪・茨木オーク）

335-B地区において今年度も夏期YCE生受け入れの時期が到来しました。アメリカ、イギリス、スイスを始め19カ国から20人のユースたちです。本年度のYCEプログラム参加者は、基本的に7月6～8日に大阪に到着、8月1～3日にそれぞれの国へ帰国することになっています。335-B地区内の12リジョンに振り分けられたユースたちは、日本の家庭での生活体験に胸躍る思いでありましょう。

この滞在期間中にYCEのOBたちの協力を得て、第35回日本国際ユース・キャンプが実施されます。

7月22日、大阪長居ユースホステルを出発点とし、いよいよ10日間にわたるユース・キャンプが始まりました。八尾、八尾菊花、八尾中央の各クラブの協力を得て、八尾市内の神社仏閣の見学、また縄跳びや盆踊りなどを経験しました。

大阪市にあるホテル・ロッジ舞洲（まいしま）では華道体験に始まり、バーベキューで楽しく食事をとり、夕方には天神祭。そして夜空に舞う豪快な花火大会を見学しました。

26日早朝、大阪から広島へ向けて出発。世界で初めて原子爆弾を投下された地、広島で、原爆ドーム、平和記念資料館を見学しました。その後の平和討論会においては、戦争の悲惨さや平和への願いを込めた意見が積極的に出されました。原爆ドームを見てユースたちは何を感じ何を読み取ったのでしょうか。オバマ大統領がアメリカの大統領として初めて広島を訪問してから

約2カ月後でした。

28日には和歌山県へ。高野山にあるライオンズ慰霊碑を参拝。その後、奥の院・金剛峯寺に詣でました。翌日は白浜へ。天候にも恵まれ、海水浴と夜は花火大会を楽しみました。

和歌山方面の名所旧跡を見学し、31日大阪太閤園に無事到着。ここでは大阪ヴァイオレットライオンズクラブの協力によるお茶席が設けられ、心を込めたおもてなしを頂きました。この日のフェアウェル・パーティーを最後に、ユースたちはそれぞれのホスト・ファミリーに引き取られていきました。

さて、日本を訪問するYCE生はたいてい茶道、華道、そして書道などを体験する機会が多いのですが、なぜだろうと考えました。これらにはいずれも「道（どう）」という字が付いています。道（どう）、すなわち道（みち）です。

老子のくだりではありませんが、「道は一を生じ、一は二を生じ、二は三を生じ、三は万物を生ず」と言われていて、全てはそこから生まれるのです。道を究めるためには、技術とそれを高めるための日々の鍛錬が必要であり、その上達していく過程とその奥にあるものを求める心がすなわち道であります。このようなことを思いながら、また日本には春夏秋冬というすばらしい四季があり、四季それぞれに咲く花々に感謝しながら、ユースたちに華道を経験して頂きました。1度や2度でそれを悟ることは出来ないけれど、花を見て美しいと思える余裕ある心こそが、我々には特に必要なのだと思います。

世界に平和が訪れることを祈りながら……。

（地区YCE・レオ委員／86年入会／81歳）

徘徊老人のつぶやき

村上　正郎（愛媛県・今治中央）

午後9時半頃、散歩に出る。分厚い空気の層をただよう塵に街の明かりが散乱反射するせいで夜空の星が見えにくいから、街灯の無い暗い道を選んで歩く。

家族は、その歳で夜の散歩、特に暗い道は危険だからと反対するが、私は頑固に暗闇を求めて一人で歩く。確かに危険な部分もあるが、安全な所ばかりに居ると安全ボケして危険への耐性、対応力を失ってしまう。暗闇では緊張感が高まり、野性的な感覚が研ぎ澄まされるのが分かる。私は安全な場所を求めるより、危険に負けない抵抗力を手に入れたいのだ。実際92歳になっても鍛える効果は間違いなく出ているように思う。

冬の夜空は、オリオン座のペテルギウス、大犬座のシリウス、小犬座のプロキオンで作る冬の大三角を中心に、おうし座のアルデバラン、御者座のカペラ、ふたご座のポルックスとカストルなどが明るさを競いながら光り、実に美しい。オリオンは５００光年だから、秒速29万キロ余り、1秒で地球を7周回るスピードで５００年走り続ける距離に在り、想像も出来ない遠さだが、その遠い星が肉眼で見えるのに驚く。あの星たちは太陽の数千倍の火の塊なのだ。しかもそんな星が宇宙には無数にあって、何万年も昔から毎日、東の空に現れ、整然と天空を西へ渡っていき、秩序を乱さない。

少年の頃、ボーイスカウトのキャンプで見た夜空も、戦争中の真っ暗な陣地で歩哨に立ち一人で見上げた夜空も、

戦後に船乗り稼業をしていた頃、デッキで見上げた夜空も同じで変わらない。暗闇に一人でいるとすぐそばに神の気配を感じ、物音が絶えると神のささやきが聞こえるような気がする。そんな神秘に触れていると、安らかな気持ちに満たされ、辛さや不満を忘れてしまう。

学生時代に戦争が始まり、長くは生きられないと覚悟し、また花束を飾ってもらえるような死に方は出来ないと感じた時、この世の美しい思い出を花束にしてあらかじめ自分で自分の中に飾ろうと思い、音楽、美術、文学、茶道などに夢中になった。一つに絞ることは考えなかった。短い時間しかなかったから、ありのままの世間の姿を、多様なままに総合的に理解し、そのまま受け入れるしかないと思っていた。趣味も度が過ぎるのではと教授に注意され、一部の人から戦時の若者としては女々しいなどと評されたものだ。

けれども、人は苦しいと表情が変わるように、プレッシャーに遭うと均整の取れていたものも端正さを失うものだが、それでもプレッシャーの強い時代に型崩れせず端正な美しさを保っているものがある。そんな美こそ本当の強さを表現していると思い、憧れ、趣味をやめることはなかった。

文化協会長になってから、これらは今はもう趣味ではなく、責任や義務を伴う仕事になった。古文書の解読も仕事になって趣味とは言えなくなった。だから今は夜歩きして星空を見るのが趣味になったのだが、実はただの徘徊老人なのかもしれない。歩いた後は生き生きしていると言われ、希望があるからね、と答えて笑われた。92歳になってもまだ希望とは、どういうこと、と。

希望とはね、何かがうまくいきそうだと将来が楽観的に見えることじゃないんだよ。今やっていることはちゃんとした意義のある行為だと確信出来ることを言うんだ。希望とは、今の自分を納得出来ることだよ。だから、生きている限りは、誰でも希望を持つことは可能なんだよ。

（63年入会／92歳）

シニア世代の活性化への取り組みについて

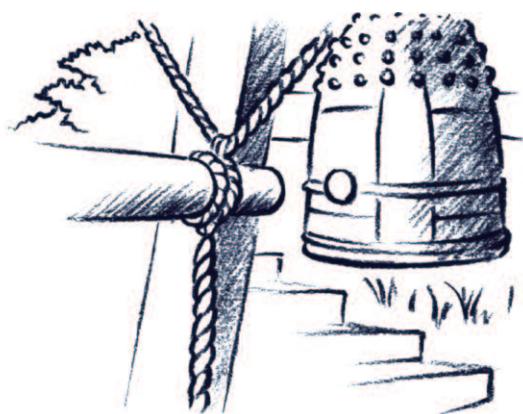
窪田　喜輝（大阪・岸和田シニア）

335‐B地区において、中村猛前年度地区ガバナー方針の一つとして「シニア世代の活性化」を図る目的で、「シニアアクション委員会」を創設して取り組んできました。

その背景には、日本の人口における65歳以上の高齢者が4人に1人を超え、クラブ・メンバーの50％強がシニア世代という現実があります。こうした中、シニア世代の活性化は急務との考えで、基本方針を2点に絞りました。

①シニア世代の持つ豊富な「知識・技能・経験」を若い世代に継承していく。若い世代とシニア世代の世代間ギャップを無くし、一体となって社会奉仕に貢献する

②シニア世代が自ら先頭に立ち、若者に負けない「青春の気概を発揮して」社会に貢献する

この基本方針に基づき、中村ガバナーの提唱する「刷新」を踏まえながら、次の2点の活動計画を柱として取り組

んできました。新しい形の「クラブ結成」、そして「支部結成」です。

①新しいシニアクラブ結成

「施設型シニア」として位置付け、健康型有料老人ホーム施設内にシニアクラブを結成しました。この構図は、施設側負担（例会場所・事務所・事務員等）と会員負担（各種会費）を明確にして会員を招請し、施設入居者・職員・地域市民から入会者を得て結成されました。クラブ名を「枚方シニアライオンズクラブ」とし、２０１６年２月２日結成、チャーター・メンバー31人（平均年齢42歳）で、会員の年齢構成は「老・壮・青」とバランスとれた持続性を考えたものであります。会費は最小限として、月会費３千円（国際会費等各種会費分）でクラブ運営をしています。

②新しい支部結成

従来のような解散クラブの引き戻し、解散の歩留まり方式ではなく、将来を見据えた若い世代の入会促進を図り、クラブの活性化を図ると共に、「クラブの持続性」「クラブ結成の足掛かり」など長期的な視野に立った支部結成であります。「小人数クラブ」「平均年齢の高いクラブ」などを対象として理解と協力をお願いした結果、年度末には六つのクラブ支部が誕生しました。

この成果を総括してみますと、課題は入会環境にあると考えられます。経済的（会費３千円～５千円）、時間的負担を可能な限り軽減することにより、今までにない業界・業種・個人ボランティア等幅広い層の方々に入会して頂きました。

支部が今後変化していく場合の方向性としては、下記の二つが考えられます。

①会員数が20人に増えたところでクラブ結成を目指す

②親クラブが支部を吸収して組織の持続化を図る

その選択肢は、親クラブにあります。中期的な計画を立て育成していくことになります。

会員増強は「創意と工夫」であります。既得の考え方にとらわれず、少し視点を変え、「刷新」を図ることが必要であると痛感しました。

（09年日本シニア・ライオンズクラブ連絡協議会代表幹事／98年入会／75歳）

金婚式を迎え、来し方を振り返る

高嶋　五月雄（いつお）（千葉県・八街）

昭和11年、私は北海道で農業を営む家の長男として生まれた。幼い頃から仕事の手伝いをさせられ、これが後に役立つことになる。中学を卒業後は農家を手伝うと決めていたが、冬の間だけ授業が受けられる酪農高校があると知り、酪農を学ぶ。農協青年団に入ると仲間と夜遅くまで、アメリカの広い土地での機械化された農業をどのように日本に取り込めるかといった話をし、家業ではいち早く自動脱穀機を取り入れ効率化を図った。

昭和29年から北海道は3年連続して台風、冷害、凶作に見舞われ、稲作農家は悲惨な状態に陥った。そんな昭和32年3月、北海道新聞に「南米パラグアイ共和国への農業移民募集」という名刺大ほどの記事を見つけた。

常々、どうせやるなら大きな農場の経営をと考えていた私は、これが求めていた人生になるかもしれないと希望に胸が膨んだ。が、父親は反対。結局、

母親が背中を押してくれ、両親と兄弟の一家8人で、新天地を目指すことになった。

　この年の5月、日本全国から集められた120人程が神戸港から出港したのである。途中沖縄で、アルゼンチンやボリビアへ移住する人を乗せ、香港やシンガポール、ケープタウンなどを経由し、目的地パラグアイに着いたのは2カ月後であった。

　さて、希望の新天地はというと、日本で説明されたような受け入れ施設もましてや農地など無く、原生林伐採からスタート。開墾、焼畑と兄弟でがんばって、作物を収穫出来るようになったのは半年後だ。一家が生活するのは楽ではなかった。

　私たちが移住した年の日本経済白書では「もはや戦後ではない」と復興宣言が出されたが、庶民はまだ貧しく、特に農家は海外に活路を見いだす以外生きる道が無いと言っても過言ではなかった。戦後まだ経済の足腰が弱かった日本にとって、700万～800万人もの引揚者は重荷だったのだろう。政府は過剰人口のはけ口を海外に求めた。パラグアイでは採算が取れず離農する人も増えていたが、それでも日本から次々と農業移民が送り込まれてきた。その人たちの収容所、学校、病院などを建築するため、事業団は大工の心得のある者を募集。私もその一人としてこれらの建築に携わり現金収入を得ることが出来た。

　娯楽が無い入植地で、私は友達と「劇団南十字星」を創設した。年に2回ほど素人演劇や踊りを披露し、入植者みんなの楽しみになった。これがパラグアイ大統領の耳に入り大統領の前で披露したり、隣国アルゼンチンへ遠征したこともある。

　25歳の時には、豊かだと聞いたベネズエラへの販路開拓を計画。ビザが取れなかったので密航を試み、捕まったらベネズエラのベタンクルー大統領宛ての手紙を渡し直談判するつもりだった。飛行機と船を乗り継ぎ、熱帯雨林の道無き道を歩く。原住民と遭遇し食べ物を分けてもらったり、上から雨のように降ってくるヤマビルと格闘すること1カ月。ようやくベネズエラ側の検問所で予定通り捕まったところ、大統領は1カ月前に失脚。骨折り損のまま帰されてしまった。

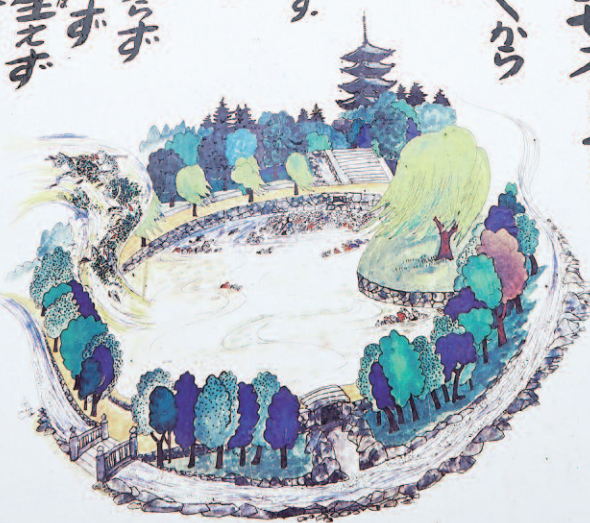
　初心に返り、農地拡張に勤しんでいた30歳、事業団が誘致した病院で働いていた看護師と結婚。結婚と同時に、パラグアイの首都アスンシオンで、家族で軽食堂を始めた。商売は順調で、3年後にはアルゼンチンのブエノスアイレスでクリーニング店と雑貨店を開店。その3年後には子どもの日本語教育のために帰国し、パラグアイ製品の輸入販売会社を設立した。私たちは学歴の無い親だが、子どもの教育は何より大切だと考えたのだ。期待通り息子は大学2年の時にパラグアイに戻り、国立大学の法学部に大統領推薦で入学した。

　今、苦楽を共にした妻と健康で金婚式を迎えられることは、家族や周囲の人々の支援と丈夫に産んでくれた親のおかげと感謝の念でいっぱいだ。

　世界各地の入植地は「緑の地獄」と表現されたり、無責任な日本政府を相手に裁判を起こした例もあるが、私たちはパラグアイで現地に溶け込み、地域の発展にも貢献したと自負している。我々が持ち込んだ大豆は生産高世界第4位の輸出産業に発展、外貨の稼ぎ頭として基幹産業となった。

　今、パラグアイの辺地には学校も先生も無い所もある。私はそうした地域に学校を建設し子どもたちに教育を受けさせる計画をしている。太陽と緑の国パラグアイは、豊かな資源と広大な土地、豊富な労働力に恵まれ、21世紀に飛躍する国の筆頭と考える。

（13年度クラブ会長／97年入会／80歳）

猿沢池こんなお話し
猿沢池の七不思議
むかし〱から
猿沢池には
不思議な
いい伝えが
あります。
「澄まず
濁らず
出ず入らず
蛙はわかず
藻は生えず
魚が七分に
水三分」
贈
奈良ライオンズクラブ

Where's Lions?
ライオンズを探せ！
@
奈良

奈良・猿沢池の七不思議を伝える碑

取材／井原一樹　写真／宮坂恵津子

平城京遷都から1300年を経た古都・奈良。交通の中心となる近鉄奈良駅の近くに猿沢池がある。興福寺が行う放生会（ほうじょうえ）のために749（天平21）年に作られた人工池だ。歴史ある池は現在、位置情報を使用したスマホゲームの人気モンスターが出現することもあり、多くの人が訪れる人気スポットとなっている。

この猿沢池を囲むように奈良ライオンズクラブが寄贈した3基の碑がある。奈良ライオンズクラブがチャーター・ナイト35周年を記念して建立、寄贈したもの。当時、35周年記念事業をどうするか、模索していたところ、L（ライオン）植原一光の提案で、池にまつわる言い伝えや伝説を記した碑を作ることになった。国内有数の観光地に寄贈するということもあって、奈良県庁観光課及び同課の文化技官と協力して絵と文を作成した。

「猿沢池の七不思議」の碑に書かれている「不思議」とは、この猿沢池が澄むことも、ひどく濁ることも無いこと。川が無いために水が出ることも入ることもないのに水が一定量に保たれていること。魚はいるのにカエルはいないこと。藻が発生しないこと。放生会で毎年魚が放流されているのに、池が魚であふれることがないこと。これら昔から伝えられてきた猿沢池の不思議をまとめ、碑に示している。

他にもクラブでは、天皇の寵愛が低下したことを嘆き、猿沢池に身を投げた采女（うねめ）（女官）が入水する際に衣を掛けたとされる柳を紹介した「悲恋の采女と衣掛柳伝説」の碑、その采女の霊を慰めるために建てられたという采女神社が毎年中秋の名月頃に行っている「采女まつり」を紹介した碑も寄贈している。

また、この猿沢池の入り口には奈良を愛し、仏教美術の研究をライフワークとした歌人、会津八一の歌碑も立っており、こちらは奈良セントラル ライオンズクラブが寄贈した。

■奈良ライオンズクラブ（野崎尚利会長／36人）＝1959年11月19日結成／毎年ライオンズクラブ杯として少年野球大会（継続41年）、少年剣道大会（40年）、ミニバスケットボール大会（13年）を実施するなど青少年育成に力を入れている。奈良市肢体不自由児父母の会へ旅行をプレゼントしており、アイバンク等にも寄付金を出している。また、采女まつり、薪御能などの地元で古くから行われている伝統芸能に協賛金を拠出し、春日大社、奈良公園といった観光名所の清掃活動も実施している。

表紙の背景

干し大根

群馬県みどり市

みどり市笠懸町は古くから干し大根の産地として知られる。上州名物と言われる冷たく乾いた空っ風が、干し大根に適していたからかもしれない。初冬になると、畑や屋敷の周囲に5段やぐらが組まれ、大量の大根が干される。やぐら掛けという作業で、白い大根が赤城山を背景に干された眺めはまさに壮観。群馬県を代表する初冬の風物詩となっている。

みどり市は群馬県東部にあり、2006年、新田郡笠懸町、山田郡大間々町、勢多郡東村が合併し、群馬県12番目の市として誕生した。

その中心地で、岩宿遺跡で知られる笠懸は、渡良瀬川の扇状地になっており、ここの大根はその肥沃な土壌の恩恵に預かっている。大根の収穫は11月中旬頃から始まり、すぐに洗って干し場に吊るされる。約2週間、空っ風にさらされ、太さが半分、重さが3分の1ぐらいになったところで出荷される。干された大根は、生のものより無駄な水分が抜けて糖化され、栄養分がアップ、非常においしい漬物となる。

表紙の写真は笠懸の阿左美地区にある生品神社境内で撮ったもの。境内はアラカシを主とした照葉樹林で、この地方のかつての原生林の面影を色濃く残している。冬になると、境内のあちこちにたくさんの大根が干される。普通の大根干しとはかなりイメージが違うが、風通しが良く、雨よけになる木が多いため、近くの農家が場所決めをして干していると聞いた。日陰で干し上げることで、色が変わらず、真っ白い干し大根が出来上がる利点もあるそうだ。

※生品神社は東武桐生線阿左美駅から徒歩7～8分

ふるさと探訪

栗と北斎と花のまち――北信濃の観光地を歩く

長野県 小布施町

取材／鈴木秀晃 写真／田中勝明

葛飾北斎最晩年の作と伝えられる「八方睨み鳳凰図」。岩松院本堂の21畳敷の天井一面に描かれた作品は迫力満点

小布施

OBUSE

長野県小布施町

長野県北部、周囲を千曲川など三つの川と雁田山に囲まれた長野盆地の一角にあり、町役場を中心に半径約2キロの円に入るコンパクトな町。内陸の盆地らしく寒暖の差が大きく、また全国的に見ても雨量の少ない地域で、こうした気候条件と、弱酸性を帯びた土壌により、色合いや風味に秀でた特産の栗や、味の良いリンゴ、ブドウなどを産出している。千曲川の舟運が発達した江戸時代には定期市がたち、北信濃の経済・文化の中心として栄えた。幕末には、葛飾北斎や小林一茶など多くの文人墨客が訪れ、地域文化に影響を与えた。

面積／19・12平方キロ　人口／1万7719人（2016年6月1日現在※推計）

【交通アクセス】

町内を長野電鉄長野線が通り、小布施、都住の二つの駅がある。長野駅から小布施駅まで特急で22分

主要道は町を南北に走る国道403号で、上信越自動車道の小布施パーキングエリア内スマートICから市街地まで約20分

いずれも桜井甘精堂で創製された小布施を代表する菓子3種

まるで町全体が、栗のテーマパーク

秋。小布施の町は、全国から押し寄せる観光客でにぎわう。お目当ては新栗だ。この季節限定のモンブランや、栗おこわ、また伝統的な栗菓子から素朴な焼き栗に至るまで、新栗を使ったグルメを求める人の波が、町のあちこちで見られる。

小布施は古くから栗の産地として知られていた。江戸時代には将軍への献上栗など、松代藩の進物用に使われた。水戸黄門こと徳川光圀の食の記録にも、甲州ぶどうや紀州梅と並んで、小布施栗の名が見られる。

栗林は松代藩の「留め林」となり、そこで採れる栗は「お留め栗」と呼ばれ、初栗の献上が済むまでは、栽培農家でさえも口にすることは出来なかった。その後、栗林の一部は幕府直轄の天領となり、小布施栗の名はますます高まった。文化8(1811)年、この地を訪れた小林一茶は、「拾われぬ　栗の見事よ大きさよ」と、庶民の口に入らない小布施栗の様を詠んでいる。

ところが明治になると、養蚕の普及で栗は桑へと転作され、減少の一途をたどる。昭和には養蚕不況で再び栗が植えられ、一時は明治初期の状態に戻るも、戦後の食料増産による栗の木の伐採やリンゴ栽培の導入などもあり、小布施栗は時代によって大きく浮き沈みを見せてきた。

現在も、小布施栗の栽培面積は、リンゴやブドウ、モモ、ナシ、サクランボなど、他の果樹に比べると少ない。が、最近は小布施の栗菓子が脚光を浴びて観光客が急増。それに伴い、栗の栽培も増えている。

小布施の栗菓子は文化5(1808)年の栗落雁に始まる。桜井幾右衛門が創製したもので、これが小布施栗菓子の始まりとなった。更に文政2(1819)年には幾右衛門の弟、武右衛門が栗ようかんを創製。小布施で栗菓子を作る桜井甘精堂(かんせいどう)(桜井佐七会長/小布施ライオンズクラブ)は、この幾右衛門、武右衛門兄弟から200年以上続く老舗で、明治25(1892)年には五代目(初代桜井佐七)が栗かのこ(栗きんとん)を創製し、小布施の代表的な栗菓子と言われる3品の完成を見ている。

小布施では現在、桜井甘精堂の他、竹風堂、小布施堂など、主な店だけでも7軒が栗菓子を作っている。小さな町で、これだけの栗菓子店が軒を連ねるのは珍しいが、結果的にはそれが観光客を引き付けることになったのではないか、と桜井甘精堂の桜井昌季社長は話す。

「現代は菓子店には生きにくい時代なんです。競争相手はコンビニスイーツで、大手の会社が開発しただけあって確かにおいしい。そんな中、小布施は栗に特化したことで、分かりやすい町づくりに結び付いたんじゃないかと思います」

半径約2キロの狭い町の中に栗菓子の名店が軒を連ね、側には栗農園もある。小布施の町全体が栗のテーマパークのようになっているのが、観光客に受けたのかもしれない。更に主な栗菓子店は全て自前の美術館や博物館を持っており、葛飾北斎の肉筆画を集めた北斎館と共に、小布施巡りの楽しみの一つとなっている。

しかも、栗菓子店にはそれぞれの特色がある。例えば桜井甘精堂は栗の風味が最優先。風味にこだわるあまり「栗菓子としては満点だが、ケ

桜井甘精堂の栗おこわ。系列店の「カフェ茶蔵」には手軽な栗おこわおにぎりもある

ーキとしては満点ではない」と社長が自己採点するメニューもあるが、それだけこだわりを持っているからで、味や食感は店により大きく異なる。観光客は好みの店を再訪したり、新たな発見を求めて他の店に入ったりと、いろいろな楽しみ方が出来、その分リピーターも多いようだ。

もう一つの楽しみ オープンガーデン

栗菓子店や博物館などを巡って、小布施の町を歩いていると、至る所で「Welcome to My Garden」と書かれた小さな看板を目にする。

これはオープンガーデンと呼ばれるもので、住人が丹精込めて作り上げた自宅の庭を一般に公開しているのだ。小布施では2000年に38軒でスタートし、今では130軒もの家や店舗、学校などが参加している。

しかし、庭に入ってくる人はどこの誰とも知れない不特定多数だし、セキュリティーやプライバシーなど、いろいろと問題も多いのではなかろうか、などと心配してしまう。小さな町だけに、住民だけならほとんどが顔見知りだろうが、それも崩れてしまう。普通なら反対意見が噴出してもおかしくはない。が、小布施の人たちは、そんな否定的な考えは持たずに、前向きに町づくりに取り組んできたという。

市村良三町長は「オープンガーデンによる町づくりの底流には小布施の人たちの『町を愛する心』や『お客様をおもてなしする心』が強くあります」と話す。

↑オープンガーデン64（ライオン市村多喜子）「小布施の町並みに配慮した花咲く樹木と和花の庭」。ライオン市村が店主を務める和菓子「いちむら」も庭園内にある

→オープンガーデン63（ライオン樋田正彦）「新旧の樹が共存する庭。せせらぎの音に心が和む」。親族が営む古民家カフェ「珈茅（こち）」への近道にもなっている

そもそも小布施には古くから、「お庭ごめん」という文化があり、他人の家の庭でも普通に通り抜けていたらしい。「外はみんなのもの。内は自分たちのもの」という考え方で、それぞれが自分の庭を解放し、お互い便利に抜けられるようにしていたのだ。

そんなこともあって、オープンガーデンに対する拒否反応も低かったのかもしれない。とはいえ、住民と行政が協働して運営するオープンガーデンは、全国でも初めてとなる試みだったそうで、やはり町長が言う「お客様をおもてなしする心」が強い町なのだろう。

実は町長の家もオープンガーデンになっている。町長夫人である市村多喜子さん（小布施ライオンズクラブ）

が、普段からこまめに手入れをしている庭で、樹木が多く、見頃は春の芽吹きと秋の紅葉。ただ、市村家の庭を見せて頂いて気になったのが、玄関横に置かれたビールサーバーの存在。

後で聞くと、誰でも自由にこのビールサーバーを使ってビールを飲んでいいらしく、どれだけ「おもてなし」をする気なのか、とさすがに驚いたものだ。次は遠慮せず、ジョッキを持ってお邪魔したい。

←オープンガーデン59（ライオン桜井佐七）「北信濃の自然、建築と調和する現代の書院式庭園」。ライオン桜井が会長を務める桜井甘精堂「泉石亭」の庭園

▼取材協力クラブ

小布施ライオンズクラブ（須山秀男会長／15人）＝1973年3月20日認証／スポンサー：須坂ライオンズクラブ／334・E地区ではライオンズクラブと自治体が包括的な連携協定を結ぶ動きが広がっており、小布施ライオンズクラブも青少年育成から環境保全までの広い分野で連携する協定を町と締結。その一環で毎月1回、「信州〝小布施〟あいさつ運動」を展開。ライオンズ、教育委員会、防犯協会が協働で小、中学校の正門前に立ち、児童、生徒一人ひとりに声を掛けている。この他、事業資金獲得のダンスパーティーや中学校に設置したライオンズ文庫への図書寄贈などを実施している。

→オープンガーデン62（栗ガ丘小学校中央花壇）中心となるのはオープンガーデン委員だが、全校児童が何らかの作業に関わり花壇を作っている

読者から―10月号

■一人では出来ないこと

「がんばるばい熊本」の詳細な報告で、全国から集まったメンバーと地元のメンバーが協力した「食・音楽・遊び」の一大イベント、すばらしい一日の様子が分かり、感動致しました。温熱マッサージにフードコートと愛にあふれた催しに、被災地の方も少しはほっこり出来たのではないでしょうか。一人では、一クラブでは成し得ないことも、全国のメンバーの連帯で、よりすばらしいアクティビティが出来るのがライオンズクラブの良さだと思いました。

兵庫県・西宮ホワイトライオンズクラブ●畑山裕子

■キッズ献血という発想に着目

「獅子吼」で紹介された若年層の献血知識と普及啓発を目的とする「キッズ献血」は大変良いことだと思いました。やはり、小さい頃からの教育が大事だと思います。我がクラブも約30年前から献血奉仕活動に力を入れており、大分県内では常に上位の成績を上げていました。しかし、記事にあるように、年々献血者が減少してきています。この減少分を少しでも取り戻そうと新規の事業所等に啓発をお願いしています。小中学校にも「キッズ献血」を行っているのか教育委員会に確認をしてみたいと思いました。

大分県・三重ライオンズクラブ●佐藤徳宣

■統計で各国の動きが分かる

「特集：ライオンズ統計」では各国の状況が分かりやすく掲載されていました。その中で、アメリカに続き、インドの会員数が多いということに驚かされました。

またLCIF理事長セミナーの記事で、フランスでは会員一人につき、約15万円の献金があることに感心させられました。

鹿児島県・種子島ライオンズクラブ●久永裕司

■LCIFについての理解を

これまでにLCIFに関して、クラブ内でコミュニケーションがうまくいっていないケースが多く感じられました。例えばどのように使われているかなどは伝わっていないと思います。『ライオン誌』で記事・事例が掲載されることにより、少しずつでも協力の輪が広がることに期待したいです。

また、『ライオン誌』には、過去、現在、未来にわたる多様なテーマの記事があり、非常に内容が濃く、記事の背景にいる人の無償の汗と努力が感じられます。こうしたライオンズクラブの良いところをうまく外部に発信出来れば、会員の増強も一層図られるのではないかと思います。今後掲載される記事も楽しみにしています。

愛知県・稲沢緑ライオンズクラブ●服部憲政

読者プレゼント

■小布施のひとくち栗菓子を読者5人に

今月号ふるさと探訪で紹介した桜井甘精堂の栗菓子「ひとくち栗ようかん」と「ひとくち栗かのこ」のセットを5人にプレゼントします。自然素材のみでつくられた純栗ようかんと、純栗あんに栗の粒を練り合わせたきんとんで、栗本来の風味を味わうことが出来ます。

プレゼントをご希望の方は、はがきに「栗菓子」と明記し、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は2016年12月末日。応募多数の場合は抽選となります。

【宛先】〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル9階　一般社団法人日本ライオンズ ライオン誌読者プレゼント係
＊オンライン応募はライオン誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp)の「ライオン誌日本語版」→「プレゼント応募」から。

〈56ページクイズの解答〉第1問=a.／第2問=c.／第3問=b.／第4問=b.／第5問=c.

●1981年10月号

「アロン号　ただ今活躍中　東京から岡山に来た盲導犬」

難波数丸（高梁ライオンズクラブ）

『ライオン誌』バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

東京虎ノ門ライオンズクラブのアクティビティとして盲導犬「アロン号」が、岡山県の主婦伊藤信子さん（51歳）に貸与されてからもう2年。

そのアフター・ケアを依頼された我が高梁ライオンズクラブは、幹事のライオン大枝信義が獣医師であるのを幸いに、年に数回の定期検診や血液検査などを引き受けている。3月には県下にいる他の2頭にも呼び掛けて、県単位では全国初の「盲導犬を語る会」（座談会）を聞くなど、国際障害者年にタイムリーなアクティビティの輪を広げている。

アロン号の主・伊藤さんは、地元の小学校教諭を務めていた昭和29年に結婚されたが、間もなく高熱が原因で全盲となり、学校も退職した。

伊藤さんが盲導犬を知ったのは、37年頃。全盲の童話作家佐々木たづさんが英国から盲導犬を連れて帰国し、その体験をテーマに著した『ロパータ　さあ歩きましょう』のラジオ放送を聞いたのがきっかけだった。出版社に手紙を出して斡旋を頼むも、「犬の訓練士が少ないので、3、4年先でないと順番が回ってこない」との返事にがっかり。

ところが、十数年後の53年6月、盲導犬貸与の吉報が舞い込んだのである。翌年2月、東京・小金井の日本盲導犬協会を訪れたのがアロン号との出会い。

1カ月間、犬舎に泊まり込んで共に訓練を受けた後、伊藤さんのアロン号との生活が始まった。交通量の多い大都会の道路で訓練されたアロン号にとって、草深い田舎道は勝手が違う様子だったが、今ではすっかり慣れ、伊藤家の一員として地区の人たちにも親しまれている。

「盲導犬を語る会」は、「目は見えなくとも、心のふれあい希望のあすを」をスローガンに、大いに話し合ってもらうのが願い。伊藤さんが、北房町身障福祉協会の機関紙『あけぼの』の1月号に寄せた「私はアロン号です」で、「岡山県内にいる仲間のパームと、ドリーナさん。どちらにも会いたい。ぜひ一度」と訴え、それがクラブの例会で紹介されたのがきっかけ。

パーム号の鈴木康子さん（36歳）とドリーナ号の間島利枝子さん（30歳）のふたりは岡山市にお住まいの主婦。伊藤さんはこれまで電話で話し合ってはいても、3人そろうのは初めて。高梁ライオンズクラブから7人のライオンが出席し、活発な意見が交わされた。その中から主な声をピックアップすると、

・岡山市の2頭の健康管理は全く個人負担で、十分に出来ない。

・盲導犬を希望している人は多い。しかし、高価（300万円以上とか）で手が出ない。行政側で貸与などの配慮がほしい。

・盲導犬はまだ一般にはよく知られていない。大型犬は恐ろしいと思っている人が多いのではないか。

・ホテルやレストランでシャットアウトされることがある。今回の座談会でも、初め厚生省系の年金保養所に申し込んだが、「犬は戸外に出しておいてくれ」と断られたので、会場を変更した。

などなど。だが最後に、

・列車や市内電車、バスは理解があって、今では不自由なく乗車出来る。

という声が聞かれたのは救いであった。

ライオン誌例会のススメ
―次の例会ですぐ使える情報

ライオンズ百科

■公式版『ライオン誌』

『ライオン誌』の創刊は国際協会創設の翌年1918年。編集長は創設者メルビン・ジョーンズだ。現在、公式版『ライオン誌』は20カ国語32版が発行されている。各国語版は5千人以上の読者会員がいる場合、申請を受けた国際理事会の判断で公式版と認められる。現在、公式版には年6回以上の発行や国際会長メッセージ、LCIF情報といった指定記事の掲載が義務付けられ、その編集・運営は国際理事会方針書に定められている。自国で公式版が発行されていない国とアメリカの会員には、国際本部が発行する本部版が配布される。

2018年1月から全公式版がデジタル化され、印刷版は年4回以上の発行となる。日本語版を含め多くの各国語版は既にEブック形式のオンライン版を公開しており、本部オンライン版(写真)も含めて国際協会公式サイトで閲覧出来る。

この日・この月

1901年12月10日、田中正造が日本初の公害事件と呼ばれる足尾銅山の鉱毒被害の惨状を明治天皇に直訴した。現在の栃木県佐野市の名主の家に生まれた正造は、1890(明治23)年の第1回衆議院議員選挙に立候補し、以後6回連続して当選した。当時、銅は日本の主要な輸出品で、足尾銅山は東アジア一の銅の産地だった。一方、鉱毒ガスや排水により周辺の木々が枯死し、渡良瀬川流域では稲が立ち枯れる被害が相次いだ。正造は被害を訴える農民運動の中心になり、国会で度々質問したにもかかわらず、政府は積極的な対策を取らなかった。正造は1901年10月に議員を辞職。12月に明治天皇への直訴を試みたが、警官に取り押さえられて失敗。これにより直訴状の内容が広く全国に知られることとなったが、1913年に正造が没すると運動は下火になった。足尾銅山は1973年に閉山したが精錬所は80年代まで稼働し、その影響は現在まで続く。

荒廃した足尾地区では現在も森林を復元する努力が続けられており、佐野西ライオンズクラを始めとする近隣のライオンズも植樹活動に参加している。

クイズ de 例会

〈第1問〉LCIF四大交付金で、単独地区のライオンズクエスト事業に交付される交付金の上限は？

a. 2万5千ドル　b. 5万ドル
c. 10万ドル

〈第2問〉LCIF四大交付金で、複合ないし複数の地区合同のライオンズクエスト事業に交付される交付金の上限は？

a. 2万5千ドル　b. 5万ドル
c. 10万ドル

〈第3問〉10月国際理事会が開かれたアメリカ・テネシー州の都市は？

a. メンフィス　b. ナッシュビル
c. チャタヌーガ

〈第4問〉高齢者や災害被災者の話を聴いて心のケアをすることを目的とするボランティア活動は？

a. 音読　b. 傾聴　c. 清掃

〈第5問〉グッドラン・イングバドター国際第2副会長の出身国は？

a. アイルランド
b. スコットランド
c. アイスランド

★回答は54ページ下

1月号予告

特集 国際協会100周年

1917年、シカゴの実業家メルビン・ジョーンズの呼び掛けに応えた全米のビジネス・サークルが参集しライオンズクラブが発足。それから1世紀、ライオンズクラブは世界中の地域社会で地域社会をより良くするために活動してきた。その100年の歩みを振り返る。

編集室

公式版編集者会議に参加して

ライオン誌
日本語版委員
◉
小柴登司
（沖縄県・浦添ウェスト）

10月25日から26日にかけて、公式版『ライオン誌』の編集者会議がドイツのベルリンで開催され、編集長の代理で出席してまいりました。初冬のベルリンと私の暮らす南国・久米島の気温差は20度以上。既に紅葉も終わり、インドの編集者と共に震えておりました。

さて今回の編集者会議には、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ大陸から集まった20人を超す公式版編集者と、国際本部のライオン誌担当スタッフ、デジタル・マガジンに関与する企業関係者などを合わせ、40人ほどが出席しました。私にとっては公式版ごとの運営の違いを始め知見の広がる有意義な会議でした。

通常は3〜4年に一度開かれる編集者会議では、各公式版の編集方針や取り組み、本部としての今後の重点課題等が討議されるのですが、昨年に続き開かれた今回、2日間にわたる各セッションのテーマはデジタル・マガジンのメリット、本部版のデモンストレーション、デジタル・マガジンのPR方法など、ほぼ2018年1月からのデジタル化移行に特化したものでした。ここでは会議の詳細には触れませんが、2018年以降全ての公式版『ライオン誌』がデジタル化される一方、印刷版は廃止されるのではなく、最低年4回の発行が義務付けられることを、確定事項として読者会員の皆さんへご報告致します。

今回の編集者会議を受けて、委員会では喫緊の課題としてデジタル・マガジンの形式や2018年以降の印刷版の体裁、発行回数等に関して検討を進めてまいります。また、デジタル化に関して読者アンケートも実施する予定です。日本のライオンズクラブの活動にとって、ライオン誌日本語版がこれまで以上に役立つ存在であるよう委員会として議論を重ねてまいりますので、皆様のご意見をお待ちしております。

最後になりますが、今年度はライオン誌日本語版委員としてライオン誌の編集に参画することになりました。今期は誌面の内容だけではなく、2018年のデジタル化という大きな変化に向け課題山積です。皆様のお力添えを重ねてお願い致します。

Official publication of Lions Clubs International

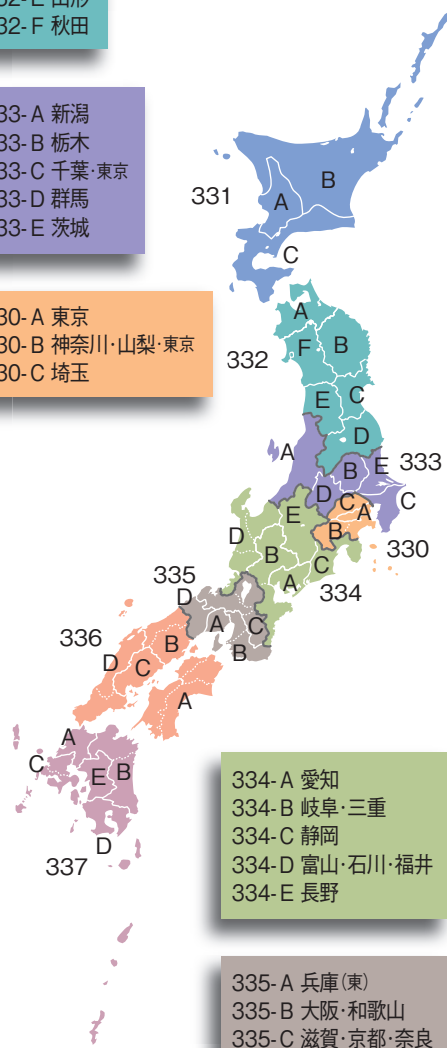
Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオンズクラブ国際協会の公式出版物であるライオン誌は、国際理事会の認可を得て次の20カ国語で発行される－英語、スペイン語、日本語、フランス語、スウェーデン語、イタリア語、ドイツ語、フィンランド語、韓国語、ポルトガル語、オランダ語、デンマーク語、中国語、ノルウェー語、アイスランド語、トルコ語、ギリシャ語、ヒンディー語、インドネシア語、タイ語

一般社団法人日本ライオンズ
ライオン誌日本語版委員会
〒104-0028東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル9階
TEL.(03)6674-8777 FAX.(03)6674-8781
E-mail. edit@thelion.jp
Website: www.thelion-mag.jp

日本ライオンズクラブ分布図

2016.10.31　eMMR ServannA報告による

地区	クラブ数	会員数	増減	男女別会員数		家族会員数			
				男性	女性（割合）	子会員	増減	男性	女性
330-A	200	6,450	47	4,669	1,781（27.6）	1,857	11	611	1,246
330-B	166	4,576	77	3,843	733（16.0）	485	0	132	353
330-C	85	2,393	42	1,941	452（18.9）	380	2	122	258
330 計	451	13,419	166	10,453	2,966（22.1）	2,722	13	865	1,857
331-A	73	2,751	17	2,218	533（19.4）	452	−7	80	372
331-B	85	2,767	25	2,222	545（19.7）	481	0	65	416
331-C	51	1,950	28	1,588	362（18.6）	338	6	85	253
331 計	209	7,468	70	6,028	1,440（19.3）	1,271	−1	230	1,041
332-A	64	2,182	59	1,695	487（22.3）	385	7	84	301
332-B	53	2,451	35	1,618	833（34.0）	859	6	151	708
332-C	67	1,909	20	1,359	550（28.8）	521	−4	110	411
332-D	72	2,562	72	1,964	598（23.3）	554	27	118	436
332-E	56	2,085	51	1,619	466（22.4）	399	14	64	335
332-F	44	1,405	5	1,021	384（27.3）	331	4	58	273
332 計	356	12,594	242	9,276	3,318（26.3）	3,049	54	585	2,464
333-A	74	3,256	28	2,571	685（21.0）	646	4	165	481
333-B	49	1,783	41	1,127	656（36.8）	614	29	160	454
333-C	133	3,525	−14	2,695	830（23.5）	545	−38	158	387
333-D	54	2,469	23	1,785	684（27.7）	712	−14	172	540
333-E	82	4,899	78	3,175	1,724（35.2）	1,959	−26	529	1,430
333 計	392	15,932	156	11,353	4,579（28.7）	4,476	−45	1,184	3,292
334-A	120	6,989	102	4,627	2,362（33.8）	2,417	−4	485	1,932
334-B	78	4,800	30	3,254	1,546（32.2）	1,715	−36	351	1,364
334-C	80	3,515	34	2,888	627（17.8）	561	−11	80	481
334-D	97	5,933	128	3,948	1,985（33.5）	2,128	59	392	1,736
334-E	52	2,722	36	1,912	810（29.8）	836	0	222	614
334 計	427	23,959	330	16,629	7,330（30.6）	7,657	8	1,530	6,127
335-A	81	2,165	24	1,696	469（21.7）	219	−3	29	190
335-B	169	6,706	89	4,878	1,828（27.3）	1,556	33	324	1,232
335-C	115	4,117	68	3,447	670（16.3）	411	0	96	315
335-D	64	2,048	5	1,587	461（22.5）	326	−7	74	252
335 計	429	15,036	186	11,608	3,428（22.8）	2,512	23	523	1,989
336-A	147	6,263	158	4,746	1,517（24.2）	1,123	22	216	907
336-B	95	3,413	21	2,700	713（20.9）	500	2	79	421
336-C	96	3,546	104	2,976	570（16.1）	390	42	72	318
336-D	93	3,453	62	2,849	604（17.5）	434	10	44	390
336 計	431	16,675	345	13,271	3,404（20.4）	2,447	76	411	2,036
337-A	116	5,578	91	4,011	1,567（28.1）	1,258	19	273	985
337-B	69	2,968	75	2,177	791（26.7）	784	22	165	619
337-C	80	4,199	−34	2,787	1,412（33.6）	1,468	−65	428	1,040
337-D	76	2,401	50	2,054	347（14.5）	188	0	36	152
337-E	58	1,819	52	1,475	344（18.9）	251	29	72	179
337 計	399	16,965	234	12,504	4,461（26.3）	3,949	5	974	2,975
総計	3,094	122,048	1,729	91,122	30,926（25.3）	28,083	133	6,302	21,781

337-A 福岡·長崎
337-B 大分·宮崎
337-C 佐賀·長崎
337-D 鹿児島·沖縄
337-E 熊本

世界のライオンズ

2016.10.31　国際協会集計

国または領域………212　クラブ数………47,087
会員数……1,401,121　会員数増減……21,631

ライオン誌12月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可 2016年(平成28年)11月20日発行 定価180円 毎月1回20日発行 送料実費78円 第59巻第6号
発行／一般社団法人日本ライオンズ ライオン誌日本語版委員会
〒104・0028 東京都中央区八重洲2・6・15 JOTOビル9階 Tel 03・6674・8777
印刷／凸版印刷株式会社

世界中の子どもたちの笑顔が見たい！

300 W 22ND STREET, OAK BROOK, IL 60523-8842, USA
Phone: 630-571-5466　Fax: 630-571-5735
E-mail: lcif@lionsclubs.org
http://www.lcif.org/JA/index.php